| 授　業<br>コ ー ド | 1001<br>1002 | 科 目 名 | きれいの科学<br>日常に活用しよう | 担 当 者 | 飯　田　　一　郎 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
身の回りには、いろいろな「きれい」があります。清潔や安全安心、スキンケアやヘアケアなど「きれい」を実現するための科学、話題を取り扱います。日常のケアに活用しましょう。

**【到達目標】**
①きれいを実現する方法を学び、日常ケアに活用。
②講座を通じてきれいに関する科学的知識を身につける。
③きれいの最前線の話題や活動などを知り見識を広める。

**【授業計画】**
第１回　　　　：序論　進め方とイントロダクション
第２回～第４回：肌と化粧品（肌のしくみ、乾燥と保湿、紫外線対策、美容理論）
第５回～第６回：ディスカッション「きれいのぎもん」、発表とレビュー
第７回～第８回：肌をきれいに（洗顔・クレンジング・ボディケア）、毛髪をきれいに（毛髪とヘアケア）
第９回　　　　：きれいと印象（ヘアスタイリングとメイクアップ）
第10回～第11回：ディスカッション「日常きれいケア」、発表とレビュー
第12回～第14回：きれいの話題（研究最前線、生活のなかの安全安心、きれいを実現するために）
第15回　　　　：まとめ　総合質疑と総評

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
講座内容をもとに身の回りのいろいろなケアを工夫し身に着けてください。
ディスカッションを通じて、聞く・伝える・対話する練習を心掛けてください。

| 成績評価<br>方法 | ①提出物（毎回）：基本的知識の理解力、応用力。<br>②ディスカッション：聞くこと及び自分の考えを伝える。 |
|---|---|
| テキスト<br>参考書 | 特になし。適宜プリント配付。 |

| 授　業<br>コ ー ド | 1003<br>1004 | 科 目 名 | インテリア基礎 | 担 当 者 | 中　西　　眞　弓 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
住まいやインテリアについての基礎的な知識を学ぶ。住まいやインテリアに関連した幅広いテーマを取り上げ、初めてこの分野を学ぶ学生にも興味を持ってもらえる内容とする。

**【到達目標】**
①住まいは人間にとって、とても重要な生活の場であることを理解する
②日常あまり考えずに過ごしている事項について改めて考える習慣をつける
③住まいやインテリアに関して興味を高める
④自分の住まいを人任せにせず、自分で考え工夫することができるための基礎を学ぶ

**【授業計画】**
第１回　　：生活行為と住居
第２回　　：間取りの基礎とスケール感
第３～４回：照明について
第５～６回：色彩調整
第７回　　：デザインの基礎
第８～９回：家具について
第10～11回：住まいの中のプライバシーの場
第12回　　：住まいの中のコミュニケーションの場
第13回　　：欠陥住宅
第14回　　：住まいの特性
第15回　　：まとめ
（順番・内容は受講生により変わることがあります。）

| 成績評価<br>方法 | 受講態度、提出物、試験の総合評価とする。 |
|---|---|
| テキスト<br>参考書 | なし |

| 授業コード | 1005<br>1006 | 科目名 | 見えない世界 | 担当者 | 田　中　　裕 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
物事の裏や原因あるいは、見えない部分を考えることが目的です。また勉強の仕方も学びます。

【到達目標】
この授業は次の４つを目標として学びます。
１ 何度も読めば文章を理解できることを知る。
２ 疑問、質問を作る力をつける。
３ 見えない部分を考えることができる。
４ 計画をたて実行することの良さを知る。

【授業計画】
第１回：生活学科の教育目標と見えない世界で学ぶこと
第２回：何故書物を読む必要があるか
第３回：「読書百遍義自ら見る」は正しいか
第４回：質問、疑問の大切さ
第５回：社会と個人を理解する
第６回：多元知能論
第７回：食品添加物
第８回：暗くて見えないもの
第９回：電磁波（光）によって見え方が異なる
第10回：隠れて見えないもの
第11回：個人の遺伝子解析
第12回：小さくて見えないもの
第13回：自然の全体像（累層性）
第14回：勉強の仕方
第15回：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
何度も読むことを覚えましょう。これは最も大切なアドバイスです。

| 成績評価方法 | 平常点・試験 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 資料を毎回配ります。 |

生活学科
専門教育科目

| 授業コード | 1007・1008<br>1241・1242 | 科目名 | クッキング　クッキング（1）<br>栄養バランスを考えて、一食のメニューを手軽に作る | 担当者 | 本多　佐知子 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
簡単で早くておいしい家庭料理を１時間以内で作り会食する実用講座。基礎的調理技術を学び、自分で栄養バランスを考えるトレーニング

【到達目標】
調理技術を学ぶ。食生活を見直す。

【授業計画】
時代の変化とともに私達の食生活は多様化し、調理のしかたもずい分変化し、その為外食がふえたり、反対に欠食する若者も多く栄養のかたよりがみうけられます。そこで１人でも手軽に簡単で、手早く経済的に一食のメニューを作れるように学びます。調理の基本を学び、どんな食生活をするか食材を選び、栄養や配色を考えて最新の調理機器、電子レンジやオーブン、ガスコンロ、IH（電磁調理器）を上手に使って、短時間で手早くおいしくおしゃれな料理を作り、楽しく食事をします。
料理の作り方だけでなく食材の選び方、旬について、食器の使い方やテーブルセッティングなども学びます。
（昨年例）
第１回　ピザトースト
第２回　白飯、豚のしょうが焼き、わかめと豆腐のみそ汁
第３回　神戸の焼豚入り炒飯、貝柱とレタスのスープ
第４回　ハンバーグステーキ、ライス、コーンスープ
第５回　五目あんかけそば
第６回　豚じゃが、ほうれん草のごま和え、かき玉汁

＜第７回～第13回は履修者数や食材などを検討し随時決定していきます＞

第14回　冷やし梅うどん
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
手順を考えて、個人的にもグループでも、協力し合って、作業する事

| 成績評価方法 | 実習時の身支度点検50点、ファイル点検（レシピ・配膳図、感想等記入）レポート・評価40点<br>切り方の実技テスト10点 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 授業ごとにプリント配付 |

| 授業コード | 1009<br>1010 | 科目名 | こころの科学 | 担当者 | 箕浦　有希久 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
心理学の基本的な知識を得ることで、自分自身や周囲の人たちへの理解が深まる。この授業では、心理学の基礎研究領域で得られた成果を中心に学び、こころのメカニズムやこころの不思議について考える。

**【到達目標】**
心理学の基本的な考え方や知識を身につけ、日常生活の様々な場面で活かせるようになる。

**【授業計画】**
簡単な実験のデモンストレーションや心理テスト体験を適宜取り入れながら、心理学の各分野における基本的なトピックスを順次紹介していく。
第１回　オリエンテーション　－心理学の基本的な考え方－
第２回　心理学の歴史
第３回　知覚１　－視覚と脳機能－
第４回　知覚２　－社会的知覚－
第５回　記憶
第６回　学習１　－条件づけ（パブロフの犬）－
第７回　学習２　－高度な学習（アハ体験）・行動療法－
第８回　ストレスと情動
第９回　性格・パーソナリティ　－心理テストによる測定－
第10回　発達と教育１　－こころとからだの成長・発達－
第11回　発達と教育２　－教育場面における学びとやる気－
第12回　社会的行動１　－偏見・対人行動・コミュニケーション－
第13回　社会的行動２　－他者から受ける影響（同調と服従）－
第14回　人間関係　－魅力・恋愛・ソーシャルサポート－
第15回　まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
必ずテキストを購入して授業に臨んでください。基本的な心理学用語の意味を理解すると同時に，新たに得た知識を身近な出来事の中で活かすために何ができるかを考えてみましょう。

| 成績評価方法 | ①受講態度および参加姿勢，②定期試験の成績 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 『心理学の基礎 - 新しい知見とトピックスから学ぶ -』　加藤 司 編　（樹村房） |

| 授業コード | 1011～1014 | 科目名 | 情報検索（1）<br>１年入門ゼミナール | 担当者 | 田中　裕<br>石井　冨久<br>岡本　久 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
学びや仕事は疑問や課題を持ち、それを解決するすることからなりたっている。情報検索（1）では主に与えられた課題をインターネットを使って解決することを学ぶ。ただし最後だけは自分で課題を設定することを行う。

**【到達目標】**
1．インターネットを使い種々の情報源から情報を得られるようになること。
2．得た情報をレポートの形でまとめられること。
3．パワーポイント等を使った発表の経験をすること。

**【授業計画】**
第１回　　　　　：検索基礎とメール
第２回　　　　　：質問
第３回　　　　　：複数キーワードでの検索
第４回又は第５回：翻訳
第６－７回　　　：地図
第８回　　　　　：本
第９回　　　　　：画像と動画
第10回　　　　　：辞典と百科事典
第11回　　　　　：新聞
第12回　　　　　：テーマ設定
第13回　　　　　：最終課題
第14－15回　　　：発表

| 成績評価方法 | 毎回の課題・発表 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 資料は毎回配布します。 |

| 授業コード | 1015～1018 | 科目名 | 情報検索（2） | 担当者 | 渡辺　卓也・中西　眞弓<br>本多佐知子・飯田　一郎 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
学びや仕事は疑問や課題を持ち、それを解決するすることからなりたっている。情報検索（2）では（1）と異なり、課題は主に自分で設定する、また本や論文から検索することも学ぶ。

【到達目標】
1．情報検索（1）で学んだ情報源に加え本や論文から調べることを経験する。
2．自ら課題を設定することを何度も経験する。
3．パワーポイント等を使った発表に慣れること。

【授業計画】
第1－3回　最初の課題の設定、検索まとめ、発表
第4－7回　本を使った課題の設定、まとめ、発表
第8－11回　論文を対象にした課題の設定、まとめ、発表
第12－15回　複数の本や論文を対象にした課題の設定、まとめ、発表

| 成績評価方法 | 毎回の課題・発表 |
|---|---|
| テキスト参考書 | |

| 授業コード | 1019～1022 | 科目名 | アンケート演習（1） | 担当者 | 渡辺　卓也・本多佐知子<br>飯田　一郎・嶋田　理博 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
アンケートとは、多くの人に同じ質問を出して回答を求める調査のことです。この授業では、アンケートの効用と限界を知り、作成、実施、分析や評価の基本を学びます。

【到達目標】
①アンケートの発案、実施、分析、発表を通じて、物事を調査、分析する基本的な手法を体験的に習得する。
②客観的分析に必要な知識（集計・グラフ作成・ピボットテーブルなど）、およびコンピュータの操作能力を身につける。

【授業計画】
第1回　アンケートとは
第2回～第4回　質問を作ろう
第5回～第8回　データ分析の演習・データの入力
第9回～第12回　結果の分析
第13回～第15回　分析結果の発表

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
アンケートの集計や分析に必要な数学的知識、コンピュータソフト（エクセル）の操作方法は授業中に指導します。

| 成績評価方法 | 受講態度、レポートおよび分析結果の発表などにより総合的に評価します。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 必要な資料は適宜用意します。 |

生活学科
専門教育科目

| 授業コード | 1023～1026 | 科目名 | アンケート演習（2） | 担当者 | 田中　裕・中西　眞弓<br>本多佐知子・飯田　一郎 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
アンケート演習（1）の基礎知識を踏まえ、各自の専門分野に関するアンケートの実施、分析を行います。

**【到達目標】**
①専門分野に関するアンケートを行い、物事を調査、分析する基本的な手法を確実なものにする。
②客観的分析に必要な知識（データの広がり・相関・クロス集計など）、およびコンピュータの操作能力を身につける。

**【授業計画】**
第１回　　　　　アンケート演習（１）の復習
第２回～第４回　質問を作ろう
第５回～第８回　データ分析の演習・データの入力
第９回～第12回　結果の分析
第13回～第15回　分析結果の発表

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
アンケートの集計や分析に必要な数学的知識、コンピュータソフト（エクセル）の操作方法は授業中に指導します。

| 成績評価方法 | 受講態度、レポートおよび分析結果の発表などにより総合的に評価します。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 必要な資料は適宜用意します。 |

| 授業コード | 1027 | 科目名 | アパレル総論 | 担当者 | 石井　冨久 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
アパレル生産・製品に関する基礎を学ぶ。

**【到達目標】**
アパレルに関する基礎的な知識を身に付ける。
ファッション販売能力検定３級、２級に合格する力を身に付ける。

**【授業計画】**
第１回：テキスタイル産業の仕組み
第２回：天然繊維
第３回：化学繊維
第４回：糸
第５回：織物
第６回：ニット
第７回：染色と仕上
第８回：副資材
第９回：アパレル産業の仕組み
第10回：アパレル商品企画
第11回：アパレル生産
第12回：アパレル販売
第13回：ファッションと色彩
第14回：品質管理
第15回：まとめ

| 成績評価方法 | 受講態度・試験の総合評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | なし |

| 授　　業<br>コ ー ド | 1028 | 科 目 名 | ファッション販売論<br>ファッション販売能力検定試験の合格を目指して | 担 当 者 | 石 井　冨 久 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
将来ファッション業界において販売スタッフとして働くために必要な知識や技術の基本を学びます。また「ファッション販売能力検定試験問題」の解答を通じて理解度を知ります。

**【到達目標】**
毎回の授業では基本問題を課して理解度を深めます。検定試験合格には70％の正解率が要求されるので、毎回の正解率が70％以上になることを目標としてください。この目標を達成すれば新人の販売スタッフとして仕事に携わることができます。

**【授業計画】**
第１回　ファッションとは何か
第２回　ファッションの基礎用語
第３回　アパレル業界、販売の仕事
第４回　マーケティングの知識
第５回　販売業務、スタッフの仕事
第６回　販売技術（１）　マナー＆接客用語
第７回　販売技術（２）　サービス
第８回　店舗演出・VP 展開
第９回　商品知識（１）
第10回　商品知識（２）
第11回　販売能力検定３級模擬試験
第12回　販売業務（事務、計数知識）
第13回　販売技術（購買心理、応対の仕方）
第14回　販売技術（顧客作り、クレーム対応）
第15回　試験

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
授業では、馴染みがあって興味の持てる内容のものと、ビジネス用語などの難しいと感じるものがあります。検定試験合格には復習すること、繰り返し問題を解くことが必要です。

| 成績評価<br>方法 | ①２回の試験：80％、②毎回の小レポート・受講態度：20％ |
|---|---|
| テキスト<br>参考書 | 特になし。資料プリントを配布。 |

| 授　　業<br>コ ー ド | 1029<br>1030 | 科 目 名 | カラーコーディネート論Ａ | 担 当 者 | 石 井　冨 久 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
「色」に関する基本的なことを学ぶ。

**【到達目標】**
文部科学省後援「色彩検定３級」に合格する力を身に付ける。

**【授業計画】**
第１回：色彩と生活
第２回：色のはたらき
第３回：眼のしくみ
第４回：混色
第５回：色の三属性
第６回：PCCS
第７回：言葉による色表示
第８回：色の心理的効果
第９回：色の視覚効果
第10回：色の知覚効果
第11回：色彩調和
第12回：色彩効果
第13回：ファッションと色彩
第14回：インテリアと色彩
第15回：まとめ

| 成績評価<br>方法 | 受講態度・試験の総合評価 |
|---|---|
| テキスト<br>参考書 | 授業内で紹介 |

生活学科
専門教育科目

| 授業コード | 1031 | 科目名 | カラーコーディネート論B | 担当者 | 石井　冨久 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
「色」に関して、基礎的なことに加え、「ビジュアルデザイン」「プロダクト」「環境」について学ぶ。

【到達目標】
文部科学省後援「色彩検定２級」に合格する力を身に付ける。

【授業計画】
第１回：光の性質と色
第２回：視覚系の構造と色
第３回：照明
第４回：マンセル表色系
第５回：JIS の系統色名
第６回：JIS の慣用色名
第７回：自然の秩序からの色彩調和
第８回：配色技法
第９回：配色イメージ
第10回：ビジュアルデザインと色
第11回：ファッションと色彩
第12回：プロダクトデザインと色彩
第13回：インテリアデザインと色彩
第14回：エクステリア環境と色彩
第15回：まとめ

| 成績評価方法 | 受講態度・試験の総合評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 授業内で紹介 |

| 授業コード | 1032 | 科目名 | ファッションマーケティング論<br>マーケティング視点を身につける | 担当者 | 石崎　真紀子 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
急速に変化するファッションビジネスの中で、消費者はどう変化し、企業はどう対応してきたのか、身近なファッション事例をひもときながらマーケティングの必要性や意味を理解し、現場で役立つファッションマーケティング視点、手法を身につける。

【到達目標】
①市場・消費者動向の変化、企業やブランドの戦略から、マーケティングの必要性を理解する。
②ファッション業界で必要なマーケティング視点と手法を理解する。
③レポートの課題を通して、マーケティング視点で主体的に考えることを身につける。

【授業計画】
１回目　授業ガイダンス。自分のファッションをマーケッター視点で分析
２回目　マーケティングの基礎知識
３回目　市場の変遷とファッション
４回目　顧客を理解する－シニア、親世代の購買動向とファッション
５回目　顧客を理解する－若い世代の購買動向とファッション
６回目　ペルソナマーケティングの意味と事例
７回目　ライフスタイルマーケティングと事例
８回目　さまざまなマーケティング戦略と事例　１
９回目　さまざまなマーケティング戦略と事例　２
10回目　ファッションマーケティングとブランドの意義
11回目　マイブランドシミュレーション－テイスト / グレード / マインド
12回目　マイブランドシミュレーション－コンセプト立案
13回目　ファッションマーチャンダイジング　　生活カレンダー
14回目　販売とマーケティング
15回目　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
講義の内容を自分の家族、友人など身近な人の生活や購買行動と関連づけながら学びましょう。日頃から、政治、経済、社会のニュースにも興味を持ちましょう。

| 成績評価方法 | ①毎回レポート：重要点が理解できているか。<br>②授業への参加姿勢、授業態度：主体的に課題に取り組んでいるか。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 特になし、適宜プリントを配付 |

| 授業コード | 1033 | 科目名 | ショップディスプレイ<br>素敵なお店・売れるお店 | 担当者 | 瀬　能　　徹 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
普段何気なく買い物をしているお店も、売る側に視点を変えると様々な仕掛けが見えてくるものです。「素敵に見えるお店」や「売れるお店」とは、いったいどのように造られているのでしょうか。自分がお店のオーナーになった想定で魅力のあるお店づくりを提案してみましょう。

【到達目標】
①現在のトレンドを、社会背景や経済動向から理解する。
②消費者のライフスタイルを分析し、ショップに求められるニーズをキャッチする。
③ショップディスプレイの目的・手法について理解し、新しい提案に結び付ける。
④プロモーションにおけるディスプレイの今後の在り方を提案できる。

【授業計画】
①ショップディスプレイの概要
②トレンドとディスプレイについて
③ディスプレイの分野と傾向
④ファッションブランドの展開
⑤ライフスタイル提案型ショップの展開
⑥商品化計画と VMD
⑦ワンシート発想法
⑧入りやすいお店と入りにくいお店
⑨ディスプレイデザインとコーディネート
⑩セールスプロモーションとディスプレイ
⑪ショップディスプレイの企画
⑫ディスプレイ分野のスタッフと役割
⑬プランニングの実践
⑭購買動機とディスプレイの関係
⑮まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
売り手の立場で考えると、ディスプレイは難しいものですが、知識を持って見れば普段の街の景色からでもお店の仕掛けが読みとれるものです。授業の後先でそういう習慣を身につけるよう心がけて下さい。

| 成績評価方法 | ①授業への参加姿勢　②授業毎のレポートと課題発表 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 要点抜粋プリントと関連資料を配布<br>パワーポイントとプロジェクター使用 |

| 授業コード | 1034 | 科目名 | ショップマネージメント<br>自分のお店を立ち上げよう | 担当者 | 瀬　能　　徹 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
お店を立ち上げるには…そこには商品だけでなく、什器や空調機器・電気設備やレジに至るまで、お店を運営するための要素が多数存在します。従業員も含め、人件費に関わることも考えると想像以上に費用のかかることが分かります。ここでは経営者と消費者の双方の視点からお店を立ちあげるノウハウについて考えます。

【到達目標】
①ショップの運営・経営がどのように行われているのかを理解する。
②商品企画からデザイン、販売までのプロセスを理解する。
③市場・商品・販路を通じてマネージメントの仕組みを考える。
④今後のマネージメントに求められるアイデアを提案する。

【授業計画】
①ショップマネージメントの概要
②販売計画と購買心理
③ビジネスマナーについて
④商環境の構成とは
⑤カラーコーディネートと印象
⑥ビジュアルマーチャンダイジングの応用
⑦プレゼンテーションについて
⑧ショップマーケティングサーベイ
⑨販売マネージメントと運営
⑩トレンド―社会背景と経済動向―
⑪コーポレートアイデンティティとは
⑫ショップオープンまでの工程
⑬集客力について
⑭業種・業態の特徴
⑮まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
日常のショッピングシーンの中で、お店の品ぞろえや価格設定、販売スタッフの対応の仕方などをよく観察してみることを心がけて下さい。思いがけないところに購買意欲をそそるヒントが隠されていることに気づきます。

| 成績評価方法 | ①授業への参加姿勢　②授業毎のレポートと課題発表 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 要点抜粋プリントと関連資料を配布<br>パワーポイントとプロジェクター使用 |

生活学科専門教育科目

| 授業コード | 1035 | 科目名 | 化粧品の科学<br>知る・考える・使う | 担当者 | 飯田　一郎 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
化粧品は科学と感性。そして科学は基本。化粧品に向き合うための入門講座です。
成分とつくり方、皮膚科学、市場トレンドなど多くのことを知りましょう。

【到達目標】
①化粧品の科学的な基礎知識を持つ。
②自分の肌質や生活に適した化粧品の選び方、使い方を学ぶ。
③リアルタイムの情報やトレンドに興味を持つ。

【授業計画】
第１回　　　　　：序論　進め方とイントロダクション
第２回～第４回：化粧品入門（化粧品のできるまで、化粧品と化学、化粧品と皮膚・効能効果）
第５回～第６回：ディスカッション「化粧品のぎもん」 発表とレビュー
第７回～第９回：化粧品各論（スキンケア、ヘアケア、メイクアップ、フレグランス　知る・考える・使う）
第10回～第11回：ディスカッション「化粧品の話題より」 発表とレビュー
第12回～第13回：化粧品の話題（トレンド情報、美容最前線、先端の研究成果）
第14回　　　　　：実習：注目商品を使ってみる　化粧品のこれからは？
第15回　　　　　：まとめ　総合質疑と総評

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
スキンケア、ヘアケア、メイクアップなど。基本的な知識を学びましょう。
応用の第一歩として自分のための化粧品や日々のケアを考えてみてください。
ディスカッションを通じて聞く・伝える・対話する練習を心掛けてください。

| 成績評価方法 | ①提出物（毎回）：基本的知識の理解力、応用力。<br>②ディスカッション：聞くこと及び自分の考えを伝える。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 特になし。適宜プリント配付。 |

| 授業コード | 1036 | 科目名 | 化粧品の科学演習Ａ<br>触れて、みて、知る | 担当者 | 飯田　一郎 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
化粧品の使い方、つくり方。肌や毛髪の観察など。まず体験しましょう。
実験や演習、注目商品の評価などを通じて理解を深め、化粧品研究に一歩踏み出してみましょう。

【到達目標】
①化粧品に関わる様々なことを知る。体験する。
②科学的方法を学ぶ。
③肌、毛髪、化粧品の評価をしてみる。
④実験・実習・提案を通じて理解力、考察力を高める。

【授業計画】
第１回　　　　　：序論　進め方とイントロダクション
第２回～第４回：スキンケア製品（化粧水、エッセンス、クレンジング）
第５回～第７回：ヘアケア製品（トリートメント、ワックス）
第８回　　　　　：スキンケア・ヘアケア商品評価（秋冬注目商品）
第９回～第10回：メイクアップ製品（感触、仕上がり、色を中心に）
第11回～第12回：メイクアップ・フレグランス商品評価（秋冬注目商品）
第13回　　　　　：先端技術を体験（基礎編）
第14回　　　　　：アイデア提案（自由演技です）
第15回　　　　　：まとめ　総合質疑と総評

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
使い方、つくり方を学び、化粧品の基本を体験しましょう。
実験・実習・提案では様々な発見をしてみてください。。

| 成績評価方法 | ①実験・実習・ディスカッション：取り組み姿勢。②提出物（毎回）：実験内容の理解度、応用力。<br>③期末レポート：講座を通じた習熟度。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 参考書 特になし。適宜プリント配付。 |

| 授　業<br>コード | 1037<br>1151 | 科目名 | アパレルデザイン演習<br>アパレルデザイン演習Ｂ | 担当者 | 石井　冨久 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
コンピュータを利用したアパレルデザインやテキスタイルデザインの基礎を学びます。

**【到達目標】**
①コンピュータによるアパレルデザインやテキスタイルデザインの基礎技術を習得する。
②色彩やコーディネートについての感性を磨く。

**【授業計画】**
第１回　アパレル製品の流れについて
第２回　テキスタイル設計技術の基礎
第３回～第５回　デザイン柄の創作
第６回～第７回　デザイン柄の配色シミュレーション
第８回　３次元の人体モデルの作成
第９回～第11回　デザイン柄を衣服にマッピング
第12回～第14回　アパレルデザインの配色シミュレーション
第15回　まとめ

| 成績評価方法 | 受講態度、課題点などにより総合的に評価します。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | なし |

| 授　業<br>コード | 1038<br>1152 | 科目名 | スタイルプランニング演習<br>自分らしいファッションをつくる | 担当者 | 三村　普久子 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
私たちのファッション生活は多様化し、アパレルブランドやショップには、様々な商品が提供されている。このような中、自分自身の感性と価値観に基づいた「自分らしいキレイ」を見つけ出すため、ファッションスタイルプランニングについての理解を深める。必要に応じて映像で最新のファッションを紹介します。

**【到達目標】**
自分を生かすファッションコーディネート力を養う。

**【授業計画】**
ファッションにおけるTPO（着る場面）について学び、それぞれのシーンに沿ったスタイリングマップを作成する。自らのファッションスタイルを探り、具体的な装いとしてプレゼンをしてもらう。
１．　オリエンテーション・スタイルプランニング授業概要
２．　スタイルプランニングの方法
３．　スタイルプランニングを行うために必要な情報について解説
４～９．スタイリング・テクニックについて
　①テクニックの種類　②年齢とスタイリング
　③オケージョンとスタイリング　④シーズンスタイリング
　⑤テイスト・スタイリング　⑥カラー・スタイリング
10～11.　TPOに沿ったスタイル・プランニングのマップ作成
12.　作成したマップによる、プレゼンテーション及び講評
13～14.　ファッション・アートの感性分析
　①トレンドクラスター　②オケージョンクラスター
　③シルエットクラスター　④ファブリッククラスター
15.　各自のファッションスタイルについて、プレゼンテーション・評価とまとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
タウンウォッチングを心がけておくこと

| 成績評価方法 | 受講態度、レポート内容、課題作品にて評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | |

| 授業コード | 1039<br>1153 | 科目名 | トータルファッション演習<br>イメージ力＆コーディネート力を磨く | 担当者 | 太田　久美子 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
衣食住全てに関わるトータルイメージ作りについて学習します。色・形・素材からくるイメージについてイメージワードごとに分類し理解を深めていきます。「カラー」「デザイン」「コーディネート」のもつイメージは、この３つのトータルな視点で学ぶことでコーディネート力が磨かれます。基本はファッションについて学習していきますが、イメージの持つ意味についての知識を深めるために、ブライダルシーンでのトータルコーディネートイメージの作り方やインテリア小物の持つイメージについても考えていきます。

**【到達目標】**
・コーディネート力が身に付きます
・カラー配色バランスが理解できます
・カラーイメージを理解することで、配色センスが磨かれ人とは違った色のお洒落感度がアップします

**【授業計画】**
第１回　　　オリエンテーション　・「イメージ」についての概論
第２回　　　ファッションイメージ【スタイリング＆カラー】～ラインアナリシス～骨格診断…自分の体型分析
第３回～５回　体型（ライン）別、似合う洋服のシルエットとは…デザイン・素材・柄・ファッションデティール
第６回～８回　イメージ別プランニング～イメージスケールの考え方
　　　　　　イメージスケールを作ってみよう「カラーイメージスケール」制作
第９～11回　ファッション小物・インテリア小物で、イメージスケールを作ってみよう
第12～15回　トータルイメージプランニング【ブライダル】～①ドレスの持つイメージについて
～②ブーケについて
～③ヘアメイクについて
～④トータルコーディネートイメージについて

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
商品・店舗・雑誌・ディスプレイなどについて、そのものが持つイメージに敏感になること
ウインドーショッピングをしていても、美しくバランスのとれたコーディネート等には意識をし注視していくことで
感性が磨かれトータルイメージ力が磨かれます

| 成績評価方法 | 授業内で制作するイメージスケールボードの提出。プレゼンテーション発表。イメージテーマに沿ったレポート提出。授業への参加姿勢・受講態度・ワークへの取り組み姿勢 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 適宜プリント配布 |

| 授業コード | 1040<br>1154 | 科目名 | 化粧学演習 | 担当者 | 半田　まゆみ |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
メイクアップの専門知識を理論的に学び、プロの技術を実習で習得することによって、魅力的な女性の演出表現法を学びます。

**【到達目標】**
自分自身の肌を健やかに保ち、清潔感のあるメイクアップ技術ができるようになり、将来的にも役に立つようにします。

**【授業計画】**
第１回：自己表現法
第２回：メイクアップ基礎理論、スキンケア、美しい肌づくり
第３回：メイクアップ道具の説明、ファンデーションの種類と使い方
第４回：ベースメイクアップ
第５回：アイブロウのシェイプづくりとデザイン
第６回：アイ・メイクアップ
第７回：リップ・メイクアップ、トータルバランス
第８回：化粧学
第９回：ローライト・ハイライトの使い方、顔の輪郭によるメイクアップ
第10回：ナチュラル・メイクアップ
第11回：レンド・メイクアップ、パーティ・メイクアップ
第12回：メイクアップによるイメージ演出
第13回：トータル・コーディネイト
第14回：トータル・コーディネイト
第15回：日本の伝統化粧

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
普段から美容に関する雑誌などを見たり、メイクアップやヘアスタイル、ファッションに関心を持つようにしましょう。学んだメイクアップ方法を日常から実践して復習してください。

| 成績評価方法 | ①基本的知識の理解②トータル・コーディネイトによるメイクアップ実習評価<br>③授業への参加姿勢・受講態度 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 特になし。適宜プリント配布。 |

| 授業コード | 1041<br>1155 | 科目名 | パーソナルカラー<br>似合う色を知ってコミュニケーション力を高めよう | 担当者 | 太田　久美子 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
色彩に関する知識を広げ、色彩の持つ効果を生活全般に活かす。
自己表現をする上で感覚・感性だけでなくＴ・Ｐ・Ｏに合った色選びが出来、イメージに合ったコーディネートが出来るよう実習しながら学習を進めていきます。

【到達目標】
・パーソナルカラーの基礎知識が深まり、洋服選びのセンスがアップし選ぶ洋服が変わる
・見た目の雰囲気、第一印象がアップしコミュニケーション力がつく
・カラーコーディネート力がアップし、お洒落に見えるファッションコーディネートが出来る
・自己表現力が磨かれる
・色彩に対する感覚が磨かれ、生活の中（衣・食・住）で活用できる

【授業計画】
第１回　オリエンテーション・色彩の重要性と第一印象について
第２回　色彩の基礎（色の三属性・PCCS トーンの概念・対比効果）
第３回　パーソナルカラーとは？（色彩の効果・活用について）・パーソナルカラー概論
第４回　パーソナルカラー理論
第５～６回　パーソナルカラー診断（学生全員）
第７～９回　４シーズン色の分類レッスン
第10回　４タイプ別イメージワードと４タイプの色の特徴について
第11回　人の持つ色（肌・目・髪）の特徴と似合う色の効果・影響について
第12～13回　お洒落に見せるカラーコーディネートテクニック
第14回　カラーコーディネート実践（ショッピングツアー & 街灯ディスプレイ check）
一週間ワードローブを制作
第15回　総まとめ～コーディネートプレゼンテーション発表

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業で学んだ「似合う色」を普段のファッションに意識して活用すること
自分の似合う色のカラーコーディネートイメージを意識し、毎日のファッションに活かすこと
日々のファッションスタイルを考える時、テーマカラーを決めてコーディネートしてみる
ウインドウショッピングの際に、パーソナルカラーを意識して見ること

| 成績評価方法 | 4シーズンカラータイプのイメージファイル（コラージュ）制作、カラーコーディネートファッションスタイルプレゼンテーション、配色ミニテスト、授業への参加姿勢・受講態度・ワークへの取り組み姿勢、期末レポート：「自身のコーディネートに対しての変化及び活用についての意識はついたか」 |
|---|---|
| テキスト参考書 | ㈲カナルプランニング制作マニュアル<br>新配色カード199a |

| 授業コード | 1042 | 科目名 | 接遇・マナー<br>ショップでの接客、接遇を学ぶ | 担当者 | 三村　普久子 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
日常のショップでの接客、接遇に関する身近な話や体験をもとにファッション業界の接客、接遇を学ぶ。

【到達目標】
お客様のニーズを読み取るノウハウを学ぶ。

【授業計画】
1．なぜ接客、接遇が大切なのか
2．ファッション業界における接客、接遇に必要な５つの要素
3．笑顔と挨拶は先手必勝
4．身だしなみ
5．お客様の心を動かすお辞儀
6．なぜ敬語が必要か
7．敬語の基本
8．敬語の応用
9．接客用語のまとめ（ロールプレイング）
10．聴き方の基本と応用
11．お客様のニーズをキャッチするには
12．電話応対の大切さ
13．電話の受け方、かけ方
14．クレーム対応の基本
15．クレーム対応の応用

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
購入時に販売員の対応をよく観察しておく。

| 成績評価方法 | レポート、受講態度 |
|---|---|
| テキスト参考書 | ゼロから教えて [ 接客・接遇 ] |

生活学科 専門教育科目

| 授業コード | 1044 | 科目名 | 栄養学<br>栄養と健康 | 担当者 | 豊原　容子 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
毎日健康で生活するためには、適切な栄養素の摂取が必要である。本講義では摂取した栄養素の生体内における意義と役割について学び、健康の保持・疾病の予防における栄養の役割について理解していく。

【到達目標】
各栄養素の働きや消化・吸収の仕組み、栄養と健康のかかわりについて理解し、自らの食生活に活かすことができる。

【授業計画】
第１回　健康と栄養
第２回　摂食行動（摂食の調節、食欲）
第３回　消化・吸収について
第４回　糖質の栄養
第５回　脂質の栄養
第６回　タンパク質の栄養
第７回　糖質・脂質・タンパク質の相互関係
第８回　ビタミン・ミネラルの栄養
第９回　食品の機能性と機能性成分
第10回・第11回　ライフステージと栄養
第12回・第13回　生活習慣病と栄養
第14回　免疫と栄養
第15回　情報社会と健康

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
教科書を読んで授業にのぞむこと、授業で得た知識は整理しノートにまとめておく

| 成績評価方法 | 定期試験（70％）、小テスト（30％） |
|---|---|
| テキスト参考書 | 『栄養と健康』第２版　日本フードスペシャリスト協会　編 |

| 授業コード | 1045 | 科目名 | 食デザイン<br>食生活について考えてみよう | 担当者 | 未　定 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
身体は第一の資本といっても良いかと思います。
何をするにも、体調が万全であれば順調に仕事や勉強をすることができます。
若い時には少々の無理もききますが、将来の自分の身体についても健康を維持できるように、健康と食生活について考えてみましょう。
また、食べ物についてのことを通して科学的に考える、という訓練をしてみましょう。

【到達目標】
食生活の面からの健康管理ができる。簡単なキッチンサイエンスから科学的な見方を習得する。

【授業計画】
1　食生活のあり方はこれでよいのだろうか？
2　病気と食事―病気になりやすい食生活？
3　食事内容についてのいろいろな目安
4　食事バランスガイドをマスターしよう
5　自分自身に必要なエネルギー量を概算してみよう
6　私たちにとって必要な食べ物とは？
7　食育の重要性
8　食に関する安全・安心
9　食をめぐる現状と課題
10　食べ物を通じて科学的に考える癖をつけよう。現象から考えてみよう。
　ブロッコリーのDNAが見えるだろうか？
　人工イクラはどのようにしてできる？
　簡単な成分チェックの例から実験結果から考えるということをやってみよう。
※担当者変更により、授業内容が変更される可能性があります。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎日の食事のあり方、自分たちの健康状態を意識してみましょう。

| 成績評価方法 | 受講態度、課題提出物、確認テスト（試験） |
|---|---|
| テキスト参考書 | 特定のテキストは使用しません。随時プリントを配布します。 |

| 授業コード | 1046 | 科目名 | 食プランニング（1）<br>バランスのとれた献立作成 | 担当者 | 本多　佐知子 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
毎日の食生活を見直して、一日に必要な食品の種類と量を知り、「何をどれだけ食べたらよいか」を学ぶ。

【到達目標】
その年代に応じたバランスのとれた献立をたてるようになる事

【授業計画】
若者の欠食による栄養のかたより、長年の食べ過ぎや運動不足が原因でおこるメタボリックシンドロームなどが、現在の日本人の食生活の問題になっている。そこで、健康的な食生活を送ることができるよう、食品成分表を使い、バランスのとれた献立作成が組めるよう学ぶ。食品群について学び、各食品群に属する食品をあげ、さらに日常よく用いる食品については、その重量とエネルギーの関係を理解する。
第１回　　　　：自分の食事はどんな状態？　－食事記録をつけてみよう－
第２回・第３回：食事バランスガイドについて
第４回　　　　：食品群について（３色食品群、６つの基礎食品群、４つの食品群）
第５回～第12回：個々の食品群について学び、同じ食品群にはどのようなものがあるかを知る。１日に必要な食品を実際にはかり、食品成分表を使って計算し、各食品の栄養素の違いを把握する。それぞれの食材をみて、調理して食べることで、実質的な量を把握する。
第13回・第14回：献立のたて方
第15回　　　　：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
食材を分類し、試食し、調理のしかたを学ぶ（見て食べて学ぶ）

| 成績評価方法 | 毎回の授業への取り組みと授業内の提出物 |
|---|---|
| テキスト参考書 | プリント配付、新食品成分表（一橋出版）、五訂増補食品成分表（女子栄養大学出版部）、家庭料理技能検定学習ガイド　（女子栄養大学生涯学習センター） |

| 授業コード | 1047 | 科目名 | フードコーディネート論 | 担当者 | 新海　智子 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
フードコーディネーターの仕事は幅が広く、様々なものがあります。それら一つ一つを知り、知識を身に付け、フードコーディネーター３級資格を取得していただきたいと思います。

【到達目標】
①食に関する様々な知識を身に付ける。
②知識だけではなく、食に不可欠なおもてなしの心やマナーなども身に付ける。
③毎回のレポートを通して、自分の意見や考えをまとめ、提案できるようにする。
　ひいては、実際のフードビジネスにも生かすことができるようにする。

【授業計画】
第１回：フードコーディネートとは
第２回：ホスピタリティー　～おもてなしの心
第３回：テーブルウェア　～食器類
第４回：テーブルコーディネート
第５回：フラワーアレンジメント
第６回：インテリアコーディネート　～食空間のインテリア
第７回：食文化　～日本と世界
第８回：マナーⅠ　～テーブルマナーとサービスマナー
第９回：マナーⅡ　～社交マナー
第10回：菓子　～洋菓子と和菓子
第11回：メニュープランニング
第12回：食品・食材
第13回：食生活　～現代の食
第14回：フード・ビジネス　～食に関わる仕事
第15回：まとめと試験

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
レストランに行く時、買い物に行く時などに、食の現場を意識的に観察してみてください。
それらの経験から自分の考えをまとめられるよう、日頃から練習してみてください。

| 成績評価方法 | ①食に関する知識の習得（演習プリント、小テスト）　②演習への取り組み（取組姿勢）<br>③食に関する意見、考え、提案の発表（レポート） |
|---|---|
| テキスト参考書 | 毎回プリントを配付します。 |

| 授業コード | 1048 | 科目名 | 食品学<br>食べ物の基礎知識 | 担当者 | 未定 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
私たちが毎日食べている食品について、基本的知識として、どのような成分からできており、その成分がどのような性質を持っているか知っておきましょう。食品の知識なくして、おいしく、栄養性が高く、安全な食べ物の提供はできません。食品成分の化学的性質、栄養・調理加工特性、物性、変質、品質劣化について習得すること

【到達目標】
食品成分についての基礎的な知識を習得する。

【授業計画】
食品成分とその機能を理解する。下記の項目について15回に分けて講義予定。
1）はじめに：食品成分表、食品の機能と健康食品など
2）水
　自由水と結合水、食品の保存と水分活性
3）栄養成分など
　炭水化物（糖質、食物繊維）
　脂質
　タンパク質
　ビタミン
　ミネラル
　酵素、核酸
4）食品成分の相互作用
5）嗜好性成分
6）有毒成分
7）食品の機能性
8）食品の物性
　その他
※担当者変更により、授業内容が変更される可能性があります。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
普段食べている食品について成分や素材、さらに分子構造としての観点でながめてみましょう。

| 成績評価方法 | 受講態度、課題提出物、確認テスト（試験）により評価予定。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 『食べ物と健康Ⅰ　食品成分を理解するための基礎』 喜多野宣子・近藤民恵・水野裕士　著、化学同人<br>より詳しい参考書としては『新版食品学Ⅰ』菅原龍幸・福澤美喜男・青柳康夫　編、建帛社を参考にします。 |

| 授業コード | 1049 | 科目名 | 食品材料学<br>食品材料についての知識 | 担当者 | 未定 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
素材を吟味して調理するにも、加工食品を利用するにも、食品素材自体をよく知っておく必要があります。その食品材料について、種類ごとに取り上げて、成分的特徴、調理特性などを学びます。

【到達目標】
食品材料の成分、調理特性等の特徴を理解する。

【授業計画】
できるだけ、個々の食品について取り上げていきますが、食品成分表に掲載されているもので五訂初版1882食品、五訂増補版で1878食品もあります。従って、日本型食生活の中心となっている、米、大豆、野菜、魚に重点をおいて、下記の項目ごとにとりあげて、種類や成分的特徴、栄養的価値、調理特性などについて講義します。
（全15回）
　＊穀類（米、小麦、大麦、そば、その他の穀物）
　＊芋類（じゃがいも、さつまいも、里芋、その他の芋）
　＊豆類（大豆、菜豆、その他の豆類）
　＊野菜類
　＊果実類
　＊その他の植物性食品（キノコ類、藻類、種実類）
　＊畜産品（獣鳥肉、乳、卵）
　＊魚介類
　＊その他の食品素材（コピー食品、組み立て食品など）

※担当者変更により、授業内容が変更される可能性があります。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
普段から家庭、あるいはスーパーマーケットや専門店の店頭にある食材を観察してみましょう。

| 成績評価方法 | 受講態度、課題提出物、確認テスト（試験）により評価予定。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 『新版　食品の官能評価・鑑別演習』を教科書として使用。この本は後期に開講している食品判別論の教科書でもあります。調理学の講義で使用する『ニューライフ調理学』、オールカラー食品図鑑、食品成分表、インターネット HP なども参考になります。 |

| 授業コード | 1050 | 科目名 | 調理学<br>調理の科学 | 担当者 | 未定 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
1）嗜好や栄養バランスを考えて献立を作成し、2）必要な材料などを準備し、3）安全に、消化吸収しやすく、特に、食べる人にとっておいしく調理し、4）満足の得られるように食卓構成し、5）積極的においしく食べる（後片付けも含む。）この全課程を調理と考えています。そこで、おいしさとは何か、調理操作でどういうことが起こっているのか、調理操作や器具についての知識を学ぶ。

**【到達目標】**
「調理」や「調理操作」の意味を考えて理解し、価値観や状況によって変化させ、応用できる力を養う。

**【授業計画】**
全15回の内容は下記の通り。
Ⅰ　おいしさについて
　　おいしさを形成する要因（味、色、におい、テクスチャー、温度、環境要因など）
Ⅱ　調理操作について
　　はかる、洗う、切る（包丁について）、和える、混ぜる、加熱器具、ゆでる・煮る（鍋について）、炊く、焼く、あげる、炒める、電子レンジ加熱、冷やす、ホームフリージング、調味する（調味料の働きなど）、だしをとる（だしの話など）。
Ⅲ　日本料理・中国料理・西洋料理等の特徴について

※担当者変更により、授業内容が変更される可能性があります。

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
とにかく調理とその現象に興味をもってみてください。

| 成績評価方法 | 受講態度、課題提出物、確認テスト（試験）により評価予定。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 『ニューライフ調理学』　森下敏子編著（建帛社） |

| 授業コード | 1051 | 科目名 | 食文化論<br>風土と文化と食との関わりを知る | 担当者 | 本多　佐知子 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
人々はどのように食べ物に関わりを持ってきたかを考え、現在の食文化の背景にはどのような歴史や変遷があるのか理解して、日本、世界の風土と文化と食との関わりを知る。

**【到達目標】**
歴史を追って食生活、食文化を学ぶことにより、多様な文化の生活習慣を学ぶとともにその背後にあるものの見方・考え方を理解する。また食文化を継承していくことができるように、さらに未来のあるべき食生活が予測できる能力を養う。

**【授業計画】**
第１回　食文化の成りたち　食文化とは何か
第２回　宗教と食物禁忌
第３回　調味料の歴史
第４回　香辛料と歴史
第５回　茶と菓子
第６回　日本料理の変遷
第７回～第９回　日本料理様式の変遷
第10回　ハレの食事（節句）
第11回　行事食
第12回　人の一生の儀礼と食べ物
第13回　配膳と食卓のマナー
第14回　郷土料理
第15回　まとめ、テスト

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
積極的な授業参加、講義内容に関連して、自主的に考え調べ、食文化に関する知識を広げていくことを望みます。

| 成績評価方法 | テスト、レポート、受講態度 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 資料を適宜配布 |

生活学科 専門教育科目

| 授　業<br>コード | 1052 | 科目名 | 食マーケティング論<br>流通システムとブランド消費 | 担当者 | 青谷　実知代 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
消費者の側からマーケティングの現状を把握する。暮らしの中で身近な小売業やブランドについてとりあげ、その仕組みについて理解を深める。(同時に、フードスペシャリストの資格取得も目指す。)

**【到達目標】**
①食の流通システムについて理解することができる。
②生産の現場から消費の現場を知ることで食のシステム問題を考えることができる。

**【授業計画】**
第１回　マーケティングとは何か
第２回　マーケティングの基本概念
第３回　フードマーケティングと食品流通
第４回　ブランド・マネジメント
第５回　百貨店と総合スーパー（消費者の変化と食生活）
第６回　食品スーパーと流通
第７回　外食産業と外食市場
第８回　コンビニエンスストアの流通について
第９回　ディスカウント・ストアとSPA
第10回　商店街とショッピングセンター
第11回　食品消費と環境問題
第12回　食品消費と安全
第13回　変化する流通構造
第14回　新しい食品消費の課題
第15回　マーケティングの企画と実践

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
常に新聞や雑誌を読んでおくこと。(特に食品関連のニュースには注目しておくこと)
※学外研修もあり。その場合、交通費や入館料等は自費となる。

| 成績評価<br>方法 | 平常点（40%)、レポート（20%)、期末試験（40%) |
|---|---|
| テキスト<br>参考書 | 「１からのマーケティング」 石井淳蔵他、碩学舎<br>「食品の消費と流通」(社) 日本フードスペシャリスト協会　建帛社※フードスペシャリストの試験希望者は必読本 |

| 授　業<br>コード | 1053<br>1160 | 科目名 | 菓子とパン（1）<br>菓子とパンA | 担当者 | 井上　麻美子 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
手軽に作ることが出来る菓子とパンの基礎を、実習を通して修得します。

**【到達目標】**
前期はとくに、基本的な技術を学びます。

**【授業計画】**
1．実習計画の概要（Ⅰ）
2．クッキー（Ⅰ）　型抜きクッキー　etc.
3．クッキー（Ⅱ）　チョコチップクッキー　etc.
4．サンドイッチの作り方　スペイン風オムレツサンド　etc.
5．パンを使ったデザート　フレンチトースト　etc.
6．パンを使った料理　クロックムッシュ　etc.
7．エスニックなパン作り　カレーパン　etc.
8．クレープ生地の作り方　クレープ　etc.
9．和菓子の作り方　花大福　etc.
10．バター生地（Ⅰ）　マドレーヌ　etc.
11．バター生地（Ⅱ）　ブルーベリーマフィン　etc.
12．寒天の使い方　グレープフルーツのゼリー　etc.
13．ゼラチンの使い方（Ⅰ）　レアチーズケーキ　etc.
14．ゼラチンの使い方（Ⅱ）　オレンジのゼリー　etc.
15．まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
毎回の出席を心掛けてください。

| 成績評価<br>方法 | 受講態度およびレポートによる評価。 |
|---|---|
| テキスト<br>参考書 | 授業ごとにプリントを配付します。 |

| 授業コード | 1054<br>1161 | 科目名 | 菓子とパン（2）<br>菓子とパンＢ | 担当者 | 井上　麻美子 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
前期で学んだ基礎的な技術をさらに高めます。

**【到達目標】**
後期は、プレゼント用のラッピングなども学んでいきます。

**【授業計画】**
1．実習計画の概要（Ⅱ）
2．クイックブレッド　　バナナケーキ　etc.
3．蒸して作るパン　　蒸しパン　etc.
4．揚げて作るパン　　ドーナッツ　etc.
5．イタリアのパン　　ピザ　etc.
6．野菜を使ったお菓子　　スイートポテト　etc.
7．パイ生地を使ったお菓子　　アップルパイ　etc.
8．スポンジケーキ（Ⅰ）　　ロールケーキ　etc.
9．スポンジケーキ（Ⅱ）　　デコレーションケーキ　etc.
10. シュー生地の作り方　　プチシュー　etc.
11. パイ生地を使ったデリカ　　キッシュ　etc.
12. タルト生地の作り方　　洋梨のタルト　etc.
13. デコレーションのテクニック　　ブッシュ・ド・ノエル　etc.
14. チョコレートの扱い方　　チョコレートブラウニー　etc.
15. まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
毎回の出席を心掛けてください。

| 成績評価方法 | 受講態度およびレポートによる評価。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 授業ごとにプリントを配付します。 |

| 授業コード | 1055 | 科目名 | 食品・栄養学実験<br>見えないものを「見える化」して調べてみよう | 担当者 | 未　定 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
食品は、われわれの五感を刺激して体内に取り入れられ、成分が変化したり、機能性を発揮したりします。その食品自体、食品成分やその特性、身体の中での変化について、そのままでは見えないところを、実験を通して調べてみましょう。また、実験を通して客観的なものの見方・考え方を身につけよう。

**【到達目標】**
自分の目で確かめる力、実験結果から考える力をつける。

**【授業計画】**
1　オリエンテーション
2　pH を測ってみよう
3　味噌汁の pH 変化　－緩衝能－
4　味覚の不思議
5　りんごや桃の皮をむくと茶色くなるのはなぜだろうか？
6　こんがりきつね色になるのはなぜ？　－アミノカルボニル反応－
7　食品のかたさ　－破断強度を測ってみよう－
8　糖の種類を特定してみよう
9　消化酵素ででんぷんを分解してみよう、バナナとスイートスポットバナナは何が違う？
10　油脂が劣化しているかチェックしてみよう　－酸価の測定－
11　野菜の色はどう変わる？
12　ビタミンＣの量を自分で測ってみよう
13　タンパク質が含まれているかチェックしてみよう
14　タンパク質が変性するって？　　ゆで卵・温泉卵はなぜ違う
15　まとめ
（順番、項目など変更する場合もあります。）

準備するもの：「知的」好奇心と行動力。白衣は貸し出します。
※担当者変更により、授業内容が変更される可能性があります。

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
毎回、実験ファイルをきちんと整理してみてください。

| 成績評価方法 | 授業への参加度（出席と実験にのぞむ態度）と、まとめ（ファイル提出）により評価予定。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 配布プリント |

| 授業コード | 1056<br>1162 | 科目名 | テーブルコーディネート | 担当者 | 新海　智子 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
テーブルコーディネートを通じて、食空間の演出、更には食文化についても考えていきたいと思います。

**【到達目標】**
①ただテーブルを飾るだけではないテーブルコーディネートの意味を知る。
②テーブルコーディネートに関連する様々な知識を身に付ける。
③テーブルを彩る小物類やフラワーアレンジメントなどを自分でも作成できるようにする。
④場にふさわしい食空間を演出できるようにする。

**【授業計画】**
第１回　　　　：オリエンテーション／テーブルコーディネートの基本
第２回　　　　：食器、リネン類の知識
第３回～第７回：テーブルコーディネートの様々なイメージ分類とテーマを決めた実習
第８回　　　　：テーブルコーディネートにおけるフラワーアレンジメント
第９回　　　　：食とワインについての知識
第10回　　　　：パーティーの種類
第11回　　　　：パーティーの知識
第12回　　　　：テーブルウェアと年中行事
第13回　　　　：インテリアについての知識
第14回　　　　：ウェディングについての知識
第15回　　　　：まとめと試験

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
コーディネートをする時の決まり事にはそれぞれ理由があります。
それらをしっかりと理解した上で、表現、演出する練習をしていってください。

| 成績評価方法 | ①テーブルコーディネートに関連する知識の習得（演習問題プリント、小テスト）　②実習への取り組み（取組姿勢）　③決まり事を踏まえた上での表現、発表（実習、レポート、実技テスト） |
|---|---|
| テキスト参考書 | 毎回プリントを配付します。 |

| 授業コード | 1057 | 科目名 | 食の安全と衛生 | 担当者 | 未　定 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
食はヒトが生きていく上で最も基本的かつ重要な営みのひとつです。授業ではまず、一般食品から健康食品まで広範囲にわたる食をめぐる様々な問題について理解しましょう。また近年、ヒトの口に入る食品の経路・経緯が多様化しているため、食品の安全性を確保することの複雑さと難しさがあることについても理解を深めましょう。さらに食の安全に関して日頃から関心を持ち、将来の職場や家庭において健康リスク回避に役立つ知識や対応方法も習得しましょう。

**【到達目標】**
①複雑化した食品の安全性問題の現状について理解する。
②食品による健康被害を未然に防止するために必要な衛生管理の方法や対策について幅広い知識を習得する。
③食品の安全性に関する総合的・体系的な知識をしっかり身につけ、フードスペシャリストの資格取得を目指す。

**【授業計画】**
フードスペシャリスト養成課程教科書である“食品の安全性”をベースに、内閣府食品安全委員会最新情報等も盛り込みながら解説する。　授業内容は以下の通り。
第１回　総論
第２回　食品の安全性について
第３回　食品の腐敗・変質と防止について
第４回　食中毒について　その１
第５回　食中毒について　その２
第６回　食品の安全性確保について　その１
第７回　食品の安全性確保について　その２
第８回　家庭における食品の安全性保持について
第９回　環境汚染と食品について　その１
第10回　環境汚染と食品について　その２
第11回　食品の器具・容器包装について
第12回　水の衛生について
第13回　食品の安全流通と表示について
第14回　食品の安全管理について
第15回　まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
・毎回授業に出席して一つでも新しい知識を身につけて下さい。
・日頃から食の安全に関するTV報道、新聞記事、Yahoo!ニュース等に関心を持つよう心掛けて下さい。
・フードスペシャリストの資格取得を目指して目的意識をもって授業に参加して下さい。

| 成績評価方法 | 受講態度および期末試験により評価予定 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 【テキスト】『改訂　食品の安全性（第3版）』　日本フードスペシャリスト協会編　建帛社、追加補足資料として適宜プリント配布　【参考資料】内閣府　食品安全委員会情報資料、『イラスト　食品の安全性（2版5刷）』　小塚諭編　東京教学社 |

| 授業コード | 1058 | 科目名 | 住生活演習 | 担当者 | 中西　眞弓 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
住宅模型や、室内模型の制作を行いながら、住まい方の工夫や、構造・材料の基本を演習形式で学ぶ。

**【到達目標】**
①住まいやインテリアに関して興味を高める
②建築模型の制作を通して、住まいにかかわる多様な知識を得ること
③室内外のコーディネートを工夫し、他の学生からも工夫を学ぶ

**【授業計画】**
第１～15回　和室・洋室それぞれの構造や、室内の構成、寸法、仕上げ材などについて学び、学生の理想とする室内模型を制作する。１/20の縮尺でできる限り本物に近い形の模型を制作することで、自分自身が気づいていない構造や材料についての興味を高め、それらの知識を得ることができるよう努めたい。

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
自分のわからないところは積極的に聞くこと。他の受講生の良いところは積極的に見習うこと。

| 成績評価方法 | 受講上の態度、作品の総合評価とする。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | なし |

| 授業コード | 1059 | 科目名 | インテリア計画論 | 担当者 | 中西　眞弓 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
美しさだけでなく機能性にも配慮する必要があることを学び、バランスのとれたインテリア計画を行うための知識を学ぶ。

**【到達目標】**
①美しさと機能性の両面からインテリアを考えることの大切さを知る
②インテリアに関心を持ち、自分で計画できるようになる
③インテリアコーディネーター資格受験に必要な知識の一部を学ぶ

**【授業計画】**
第１回　風土と住まい
第２回　通風・換気・窓
第３回　結露と住まい
第４～５回　冷暖房と温熱環境
第６回　騒音と音環境
第７～８回　照明・照明計画
第９回　ウィンドウトリートメント
第10～11回　インテリアの歴史
第12回　木材の基礎知識
第13回　家具について
第14回　収納
第15回　まとめ
（順番、内容は受講生により変わることがあります。）

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
プリントは毎回ではありません。わからないところがあった場合、プリントがあればそれに書き込んでください。プリントがない場合は終了時に聞きに来てください。

| 成績評価方法 | 提出プリント、受講上の態度、試験の総合評価とする。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | なし |

| 授業コード | 1060 | 科目名 | インテリアマテリアル | 担当者 | 瀬　部　　明 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
建築およびインテリアに用いられる材料について細かく紹介していきます。商品選択に役立つ知識も盛り込みます。

**【到達目標】**
①さまざまな材料の特性を理解する。
②どこに何が使えるか理解する。

**【授業計画】**
第１回．玄関に必要なものは　受講にあたっての注意点、一連の講義の概説
第２回．土足厳禁の決まり　日本の風土とインテリアの歴史
第３回．れんがは強かった　by　こぶた　西洋の風土とインテリアの歴史
第４回．空間の掟　インテリアの構法
第５回．よく見て！さわって！　テクスチャー
第６回．木を使おう　木質系材料、製品の紹介
第７回．土・石を使おう　土・石系の材料、製品の紹介
第８回．紙・布を使おう　紙・布製品の紹介
第９回．金属を使おう　金属材料、製品の紹介
第10回．ガラスを使おう　ガラスの特性、魅力ある使用例の紹介
第11回．プラスチックを使おう　化学工業系の材料、製品の紹介、リサイクル問題
第12回．生き物を使おう　インテリアとしての植物やアクアリウム
第13回．芸術品を使おう　芸術品、オブジェの飾り方と生かし方
第14回．人間工学を知っておこう　人間工学とインテリアマテリアルの関連
第15回．まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
前もって指示した材料を探す努力をして下さい。また、ホームセンターなどの商品はもとより、街中の壁や柱などあらゆるものを触って踏みしめて、感触を経験しておいて下さい。極めて大事な学習です。

| 成績評価方法 | 小レポートおよび後期試験で総合評価する。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 毎回レジメを配る。 |

| 授業コード | 1061 | 科目名 | 住生活デザイン | 担当者 | 中西　眞弓 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
住み方やインテリアコーディネートの工夫を、３Ｄソフトを用いてPC上で行う。

**【到達目標】**
①住まいの設計に必要な知識を得る
②住まいの各部屋のコーディネートを工夫する
③エクステリアの基本的な設計を行う

**【授業計画】**
第１～15回　実際に建築家やコーディネーターになったつもりで、コンピュータの３Ｄソフトを用い、自分の理想の家を設計し、その住まいの内外のデザインを工夫する。初心者にもわかりやすいソフトを使用しているので、まず自分の理想を形にすることから始める。その上で、敷地の条件等を示して新たな課題に取り組む。

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
自分のわからないところは積極的に聞くこと。他の受講生の良いところは積極的に見習うこと

| 成績評価方法 | 受講上の態度、作品の総合評価とする。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | なし |

| 授　業<br>コード | 1062 | 科目名 | プランニング<br>住居製図の基本 | 担当者 | 瀬　部　明 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
この実習はいろいろな住居製図系実習の基本で、全て手描きです。１回でも休むと後々遅れをとってしんどくなりますので、できる限り出席して下さい。特に、第１～４回の４回で欠席が多い場合は失格とします。ちゃんと出席していれば時間に追われないはずなので、頑張ってください！

**【到達目標】**
①建築に関する図面を理解する。
②基本的な製図ができる。
③自分の考えを図面に表せる。

**【授業計画】**
第１，２回．製図用具の説明、線を描く　いろいろな線を描く
第３，４回．平面図を描く　住宅平面図を描く
第５，６回．立面図を描く　住宅平面図をもとに立面図を作成
第７，８回．配置図と庭園設計　庭園設計と着色の練習
第９，10回．リフォーム、リノベーション　間取りの変更の提案
第11～15回．自由設計　与えられた条件を満たす住宅の設計

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
製図室の準備室にある建築関連の雑誌等は折々に読むように指示しますが、適宜各自でも目を通しておきましょう。
いろいろなアイデアを、とにかくいろいろなものから吸収して作り上げて下さい。

| 成績評価方法 | 全課題で評価する。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 用いない。 |

| 授　業<br>コード | 1063<br>1164 | 科目名 | インテリアデザイン | 担当者 | 中西　眞弓 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
インテリアコーディネーターの仕事を理解し、与えられた条件の中でのコーディネートや、それを第三者に伝えるためのプレゼンテーションの仕方を学ぶ。

**【到達目標】**
①与えられた条件の中で、住み手を考えたインテリアを工夫できる
②自分なりの家具やテキスタイルを工夫できる
③第三者に伝えるための技術を学び、発信できる

**【授業計画】**
第１～15回　インテリアをデザインし、コーディネートできるソフトを使用し、仕上げ材料、家具等の一つ一つにオリジナルのものを工夫し、コーディネートする。インテリアコーディネーター、２級建築士の実技試験レベルの内容に対して、どのような提案ができるかを工夫し発表する。半期間に３～４つの課題を仕上げる予定である。

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
意欲的に課題に取り組むこと。
発表に際しては、他の受講生の良いところを学ぶこと。

| 成績評価方法 | 受講上の態度、作品の総合評価とする。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | なし |

| 授業コード | 1064<br>1165 | 科目名 | ドローイング | 担当者 | 中西　眞弓 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
資格取得に必須となる透視図法について学び、室内や家具のパース図が描けるように、種々の透視図の作成法を知り、実際に描けるようにする。

**【到達目標】**
①透視図の描き方と役割を理解する
②基本的な透視図（パース）が作成できる
③プレゼンテーションツールとしての透視図が作成できる

**【授業計画】**
第１回　　１点透視図法の役割と描き方
第２～４回　グリッドによる１点透視図
第５～８回　１点透視図室内図
第９～10回　鳥瞰図
第11～14回　２点透視図
第15回　まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
意欲的に課題に取り組むこと。
発表に際しては、他の受講生の良いところを学ぶこと。

| 成績評価方法 | 受講上の態度、作品の総合評価とする。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | なし |

| 授業コード | 1065 | 科目名 | リビングスタイリスト<br>インテリア関連の資格取得を目指して | 担当者 | 瀬部　明 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
近年注目を浴びつつある「リビングスタイリスト２級」資格取得を目指して、流通販売の知識に加えてインテリアの知識も身につけていきます。

**【到達目標】**
①リビングスタイリスト２級資格を取得する。
②流通販売のしくみを理解する。
③販売実務の流れを理解する。

**【授業計画】**
第１回.　リビングスタイリストの仕事、流通のしくみ
第２回.　小売業について
第３回.　情報
第４～７回.　接客販売
第８回.　ビジネスマナー
第９回.　家具
第10回.　窓装飾
第11回.　照明、設備
第12回.　住生活アクセサリー
第13回.　模擬テストなど
第14回.　リビングスタイリスト２級受験（学内で団体受験）
第15回.　試験の解説など
※受験日以降の講義が発生する可能性があるが、必ず出席すること。

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
受講中、雑貨店やホームセンターなどに必ず足を運んで実物および販売の様子を観察して下さい。元町、三宮周辺には参考になるお店がたくさんあります。

| 成績評価方法 | リビングスタイリスト２級試験の団体受験を学校で行うので、必ず受験すること（要受験料6,500円）。<br>リビングスタイリスト試験に不合格でも評価をする。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | ２級リビングスタイリスト資格試験公式テキスト |

| 授業コード | 1066<br>1169 | 科目名 | クラフト＆ラッピング<br>ラッピングコーディネート | 担当者 | 中西　眞弓 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
ラッピングとそれにかかわるマナーを基礎から学ぶ。包装紙を利用したクラフトを制作する。

**【到達目標】**
①ラッピングコーディネーターに必要な技術を身につける
②商品装飾展示技能検定に必要な技術を身につける
③心の表現法としてのラッピングの知識を身につけるとともに、社交上のマナーに関する知識を得る

**【授業計画】**
第１～７回　資格に求められる技術を身につける
第８～13回　応用的なラッピングを学び、クラフト制作の工夫も行う
第14～15回　自分なりのアレンジを工夫する

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
毎回違う内容を進めていきます。休まないこと！

| 成績評価方法 | 受講上の態度、作品の総合評価とする。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | なし |

| 授業コード | 1067 | 科目名 | ショップディスプレイ演習　初級 | 担当者 | 中西　眞弓 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
ショーイングの基礎的知識と技術を学ぶ。ショーイングディスプレイを実際に試みる。

**【到達目標】**
①ショーイングの基礎的な知識を得る
②ショーイングのスキル（技術）を身につける
③ショップディスプレイの構成を工夫し実践できる
④商品装飾展示技能検定の受験に役立つ知識を得る

**【授業計画】**
第１回　　　ショーイングとは
第２～４回　レイダウンのフォーミング
第５～６回　ピンナップの基本
第７～８回　雑貨のピンナップ
第９～10回　テグスワークの基本
第11～12回　テグスワークの応用
第13～14回　小物の扱い方
第14～15回　ディスプレイの工夫
（順番、内容は受講生により変わることがあります。）

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
毎回重要な内容を含んでいます。休まないこと。
できるだけ積極的に取り組むこと。

| 成績評価方法 | 受講上の態度、 作品の総合評価とする。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | なし |

| 授業コード | 1068 | 科目名 | コミュニケーションスキル | 担当者 | 吉津　潤 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
人と人とのつながり、すなわち対人コミュニケーションは私たち人間にとってかけがえのないものだ。私たちは対人関係によって傷つき落ち込むが、癒され励まされるのもまた対人関係による。良好な対人関係を築くことは心にも体にも良い影響を及ぼすことがわかっている。本講義では、他者との良好な対人関係を築くために必要なコミュニケーションスキルについて、講義および実践的なワークを通して学ぶ。

【到達目標】
講義を通して、受講生が自身のコミュニケーションスキルを高め、実生活における対人関係（友人関係、家族関係、就職面接）の問題解決に活用することができるようになることを目標とする。

【授業計画】
第１回　コミュニケーションとは　－コミュニケーションの意味－
第２回　コミュニケーションスキルとは　－対人関係を支えるコミュニケーションスキル－
第３回　コミュニケーションスキルの発達　－コミュニケーションスキルはどのようにして育まれるのか－
第４回　言語的コミュニケーション　－あいさつ、言葉遣い、相づちの効果－
第５回　非言語的コミュニケーション　－表情、しぐさ、姿勢、服装から伝わるもの－
第６回　感情と認知のコミュニケーション　－共感・思いやりのコミュニケーション－
第７回　傾聴のコミュニケーション　－相手の話に耳を傾ける－
第８回　自己開示と自己呈示　－自分のことを話そう、より良く知ってもらおう－
第９回　心理的健康とコミュニケーション　－心の健康を保つコミュニケーションとは－
第10回　ネット社会のコミュニケーション　－ネットコミュニケーションの利点と欠点－
第11回　ワーク１　－自分のコミュニケーションスタイルを知ろう－
第12回　ワーク２　－自分の気持ちをうまく伝えよう－
第13回　ワーク３　－相手の気持ちを理解する力を養おう－
第14回　ワーク４　－対人コミュニケーションを実践しよう－
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
講義内容をより深く理解するために、講義とあわせて実践（心理テスト、グループワーク、ゲームなど）を行う。講義、実践に関わらず積極的に参加することが望まれる。

| 成績評価方法 | 授業への参加姿勢、授業中の課題、レポート等を総合して評価する。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | テキストはなし。参考資料は適宜配布もしくは紹介する。 |

| 授業コード | 1069 | 科目名 | 人間関係論 | 担当者 | 阪本　路子 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
人間は、生まれてから死ぬまでのその一生を通して何らかの人間関係があると言えます。
それぞれの時期にどのような人間関係があり、また関係に行き詰った時には、何に頼りどのように対応していけばよいのかを学んでいきます。

【到達目標】
①自分自身の今までの人間関係、今の人間関係を授業と共に見つめ直し、理解する。
②これから通過するであろう発達課題を学習しながら、これからの人間関係について考える。

【授業計画】
第１回　：オリエンテーション・人間関係と感情曲線
第２回・第３回：パーソナリティ論
第４回　：胎児期の人間関係
第５回　：新生児期の人間関係
第６回・第７回：乳幼児期の人間関係
第８回・第９回：映画を通して人間関係を考える
第10回　：児童期の人間関係
第11回　：青年期の人間関係
第12回　：成人期の人間関係
第13回　：中年期の人間関係
第14回　：老年期の人間関係
第15回　：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
自分自身の今までの経験や考えを常に頭に置きながら受講してもらえると、授業内容が頭に入りやすいと思います。

| 成績評価方法 | 授業時の態度・レポートなどにより、総合的に評価する。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 特になし。適宜プリント配付。 |

| 授　業<br>コード | 1070 | 科目名 | 臨床心理学 | 担当者 | 阪本　路子 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
一言で「臨床心理学」と言っても、そこにはさまざまな立場、さまざまな考え方があります。
ここでは代表的な理論をいくつか紹介し、「こころに表れるさまざまな症状」について知識を得、理解を深めたいと思っています。

**【到達目標】**
①授業で学ぶ代表的な理論を理解する。
②「こころに表れる症状」を学ぶことで、自分だけでなく他人に対する理解を深める。

**【授業計画】**
第１回　　　　：オリエンテーション・臨床心理学とは
第２回～第４回：心理援助の基礎を学ぶ
第５回　　　　：カウンセリングにおける基本的な態度
第６回・第７回：ビデオを通してカウンセリングを考える
第８回・第９回：心理アセスメント
第10回～第12回：こころに表れるさまざまな症状
第13回・第14回：映画を通して「こころに表れる症状」を考える
第15回　　　　：まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
受講内容を自分の身に置き換えて考えてみるようにすると、授業内容が理解しやすく、頭に入りやすいと思います。

| 成績評価方法 | 授業時の態度・レポートなどにより、総合的に評価する。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 特になし。適宜プリント配付。 |

| 授　業<br>コード | 1071 | 科目名 | 恋愛心理学<br>恋ゴコロを科学する | 担当者 | 平松　隆円 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
人は、人を好きになる。単純でありながら、そのことで多くの人は悩む。なぜ、その人のことを好きになったのか。どうやって、その人と付き合っていけばよいのか。 恋愛は、人間関係のなかでも特に興味・関心の高い現象であり、重大な危機状況にもなりうる対人関係にもかかわらず、一般的には個人的な問題として片付けられてしまっている。本講では、恋愛に潜む心理的な働きを学ぶことによって、人間関係における意識や行動を考える。

**【到達目標】**
恋愛に潜む心理的な働きを学ぶことによって、人間関係における意識や行動を考える。

**【授業計画】**
第１週　恋心を抱くとき
第２週　はじまりのコミュニケーション
第３週　愛情の結びつき
第４週　日本における恋愛の位置づけ
第５週　愛に関するいくつかの理論
第６週　恋愛の進展段階と時代的変化
第７週　恋人の欠点
第８週　恋人との関係と精神的不健康の関連
第９週　恋愛における嫉妬と浮気
第10週　排他的性規範という現代的な問題
第11週　失恋の心理
第12週　恋愛における日常的コミュニケーション
第13週　異文化恋愛と結婚
第14週　一夫一妻と恋愛
第15週　恋愛心理の光と影

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
講義で学ぶ知識と身の回りの出来事を関連づけながら、授業に参加すること。

| 成績評価方法 | 授業貢献度：20%、期末レポート：80% |
|---|---|
| テキスト参考書 | 使用しない。 |

| 授業コード | 1072 | 科目名 | 感性心理学<br>感性を磨こう | 担当者 | 山本　洋紀 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
感性とは外界の刺激を五感（視覚、聴覚、触覚、臭覚、味覚）で感じとる能力のことです。感性は誰もが持つ能力ですが、残念なことに、学校で読み書きを学ぶにつれて多くの人は感性を退化させているように思います。画家のモネは「ものをよく見るにその名前を忘れなければならない」と述べています。

**【到達目標】**
この講義では、絵画や写真などのアートや身近なものを題材に、皆さん自身の感性を実感することで、感性を生み出す心のしくみを探求します。

**【授業計画】**
①　感性とは？　感性を磨くには？
②　明るさの感性Ⅰ　明るいものは白い？
③　明るさの感性Ⅱ　輪郭の力
④　かたちの感性Ⅰ　よいかたちとは？
⑤　奥行きの感性Ⅰ　３Ｄになぜ見える？
⑥　奥行きの感性Ⅱ　パースとは？
⑦　奥行きの感性Ⅲ　陰影の力
⑧　色彩の感性Ⅰ　色を混ぜると？
⑨　色彩の感性Ⅱ　補色とは？
⑩　色彩の感性Ⅲ　色と明るさの役割
⑪　色彩の感性Ⅳ　よい配色とは？
⑫　質感の感性Ⅰ　光沢とは？
⑬　質感の感性Ⅱ　風合いとは？
⑭　運動の感性Ⅰ　ダンスの表現
⑮　まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
授業内容を日々の生活の中で実感できるように写真やスケッチの課題を出します。積極的に実践して下さい。

| 成績評価方法 | 受講態度、レポート試験を総合して評価します。特に、様々なデモンストレーションによる体感的な授業を行いますので、積極的な授業参加を期待しています。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 教科書はありません。講義で配布する資料を使用します。 |

| 授業コード | 1073<br>1181 | 科目名 | カウンセリング演習 | 担当者 | 阪本　路子 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
イメージワークや描画、コラージュなどの体験を通して、“今まで自分でも気付いていた自分”の再確認と、“今まで自分では気付いていなかった自分”の発見をしていきたいと考えます。
色々な「体験」と「気付き」を通して、沢山の自分に出会ってもらえたらと思います。

**【到達目標】**
①“今まで自分でも気付いていた自分”の再確認をする。
②“今まで自分では気付いていなかった自分”の発見をする。
③その場にいるメンバーの考えや意見をしっかりと聞き、また自分の考えを持ち、周りに伝える努力をする。

**【授業計画】**
第１回　　　　：オリエンテーション・カウンセリング実習とは
第２回～第４回：信頼体験（ブラインドウォーク、描画など）
第５回～第８回：自己主張・他者理解体験（グループ、個人での描画、イメージワークなど）
第９回～第14回：心理テスト・心理療法体験
第15回　　　　：まとめ（今までの私、これからの私）

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
どんな内容に対しても積極的にかかわろうという姿勢を持ち、真面目な態度で取り組んで下さい。実習中の自分自身の「気付き」、メンバーの「気付き」を共有出来るよう心掛けて下さい。

| 成績評価方法 | 授業時の態度と積極的な発言・レポートなどにより、総合的に評価する。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 特になし。適宜プリント配付。 |

| 授　業<br>コード | 1074 | 科目名 | 音楽療法入門 | 担当者 | 後藤　浩子 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
音楽療法の基礎理論と実践について、講義やビデオ、ワークショップを通して学び、対象者を理解し、自分を知ることも学びます。

【到達目標】
①音楽療法の基礎理論と実践について、具体的な事例を通して学ぶ。
②また将来、音楽を教えたり、子どもや大人とかかわる体験をする際に役立てるよう、障害や問題のある子ども・成人・高齢者を理解する方法や接し方を理解する。

【授業計画】
第１回～第３回　音楽療法の理解（定義・歴史・目的・意義など）
第４回～第６回　音楽を用いることの意義・効果について
第７回～第９回　いろいろな音楽療法
第10回～第12回　対象者の理解・自分自身の理解
第13回～第14回　様々な時期の音楽療法
第15回　試験・まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎回の学習内容を振り返り、日常生活の中で、音楽と人との関係について、考えながら過ごすことを心がけて下さい。

| 成績評価方法 | 受講態度・レポートか試験及び提出物 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 特になし。適宜プリント配付。 |

| 授　業<br>コード | 1075<br>1076 | 科目名 | 情報のかたち | 担当者 | 渡辺　卓也 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
「情報とは何か」を考えながら、情報化社会を支える基本的な仕組みと、その社会で生きるための基本的姿勢を学びます。

【到達目標】
①人間が情報を知覚する基本的なしくみについて理解する。
②コンピュータが情報を処理する基本的なしくみについて理解する。
③コンピュータの今後の発展や、人間とコンピュータの望ましい関係について、さまざまな側面から考える力を持つ。

【授業計画】
第１回　はじめに
第２回　知覚と情報（１）　いろいろな知覚
第３回　知覚と情報（２）　情報としての光や音
第４回　人間の情報処理（１）　絵から文字へ
第５回　人間の情報処理（２）　数と計算
第６回　コンピュータの誕生（１）　計算機の歴史
第７回　コンピュータの誕生（２）　コンピュータ計算のしくみ
第８回　コンピュータの誕生（３）　デジタル計算の基本
第９回　マルチメディア（１）　文字
第10回　マルチメディア（２）　画像
第11回　マルチメディア（３）　音声
第12回　情報化社会（１）　インターネットの発達
第13回　情報化社会（２）　変貌する社会
第14回　情報化社会（３）　今後の展望
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
いろいろな分野と関連する話をしますので、興味を広く持って授業にのぞんでください。
また、講義内容に関する発展課題への取り組みを重視しています。

| 成績評価方法 | ①「受講態度」：各回の授業内容の理解度により評価　②「課題」：各授業の発展学習と自分で考えて書く力を評価　③「試験」：基本事項の確認および総合力を評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | プリントを配布します。 |

| 授業コード | 1077 | 科目名 | コンピュータ・サイエンス | 担当者 | 田中　裕 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
コンピュータサイエンスの基礎について学びます。コンピュータは日進月歩していますが、ここで学ぶことは基礎ですからすぐには古くならないことを学びます。

**【到達目標】**
1．0と1からコンピュータを理解できること。
2．プログラムで if と while が使えること。

**【授業計画】**
第1回　：数を2進法で表す
第2回　：文字を表す
第3回　：音や画面を表す
第4回　：3種類の判断
第5回　：足し算回路
第6－7回：コンピュータの構成
第8回　：情報量
第9回　：圧縮
第10回　：プログラム作成の手順
第11回　：変数と関数
第12回　：分岐
第13回　：繰り返し
第14回　：ハッシュ
第15回　：まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
プログラムはできるとうれしいです。がんばりましょう。

| 成績評価方法 | 平常点・試験 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 必要な資料はこちらで用意します。 |

| 授業コード | 1078・1079<br>1182・1183 | 科目名 | 表計算　表計算初級 | 担当者 | 渡辺　卓也<br>打田　智幸 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
表計算ソフト Excel（エクセル）の基本的な操作法を習得します。

**【到達目標】**
①基本的な計算方法や関数の機能を理解し、活用できる。
②グラフによるデータの視覚化ができる。
③並べ替え、抽出などのデータベース機能の基本を理解する。

**【授業計画】**
第1回　Excel の基礎知識
第2回　Excel 入門①　合計の計算
第3回　Excel 入門②　グラフ作成の基本
第4回　ワークシートの活用（1）①　行・列の編集
第5回　ワークシートの活用（1）②　罫線
第6回　ワークシートの活用（2）①　セル番地の絶対参照
第7回　ワークシートの活用（2）②　条件の判定
第8回　前半のまとめ
第9回　グラフ（1）①　棒グラフ、折れ線グラフ
第10回　グラフ（1）②　円グラフ、その他のグラフ
第11回　データベース①　データベースの作成方法
第12回　データベース②　検索と抽出
第13回　実践問題①
第14回　実践問題②
第15回　総まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
コンピュータの操作を習得するには、日常の反復演習が重要なので、受講態度や課題の提出状況を重視しています。

| 成績評価方法 | ①「受講態度」: 各回の例題の提出状況等で理解度を評価　②「課題」: 各回の関連問題の提出状況を評価<br>③「試験」: 重要事項の確認および総合力を評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 「30時間でマスター　Windows 7対応 Excel2010」（実教出版株式会社） |

| 授業コード | 1080・1081<br>1239・1240 | 科目名 | 表計算中級 | 担当者 | 渡辺　卓也<br>打田　智幸 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
Excel の基本知識を確実なものとし、さらに実用的・発展的な技術を演習します。

**【到達目標】**
①いくつかの関数を組み合わせて、複雑な演算を行うことができる。
②複合グラフなどのグラフの高度な作成法を理解する。
③データベース関数や他ソフトとの連携など、発展的な活用方法を習得する。

**【授業計画】**
第１回　表計算初級の復習
第２回　条件の判定（IF 関数）
第３回　条件付き書式、グラフ（１）の復習
第４回　グラフ（２）①　複合グラフ
第５回　グラフ（２）②　XY グラフ
第６回　データベース①　並べ替えと抽出
第７回　前半のまとめ
第８回　データベース②　Excel の応用①
第９回　Excel の応用②　VLOOKUP 関数
第10回　Excel の応用③　HLOOKUP 関数
第11回　Excel の応用④　文字列関数
第12回　Excel の応用⑤　データベース関数
第13回　実践問題①
第14回　実践問題②
第15回　総まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
（１）、（２）のいずれかに該当する人を対象とします。
（１）表計算初級の単位を取得している
（２）表計算初級に相当する内容をすでにマスターしている

| 成績評価方法 | ①「受講態度」: 各回の例題の提出状況等で理解度を評価　②「課題」: 各回の関連問題の提出状況を評価<br>③「試験」: 重要事項の確認および総合力を評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 「30時間でマスター　Windows ７対応 Excel2010」（実教出版株式会社） |

| 授業コード | 1082・1083<br>1184・1185 | 科目名 | マルチメディア入門 | 担当者 | 渡辺　卓也 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
画像・音声・動画の作成を通して、マルチメディアの基本を理解することを目標とします。

**【到達目標】**
①コンピュータが画像、音声、動画を表現する基本的なしくみについて理解する。
②マルチメディアを作成するソフトの種類や操作方法の基本を理解する。

**【授業計画】**
第１回　はじめに・Word で自己紹介
第２回　色について
第３回　画像処理
第４回　Word で図形描画
第５回　画像とりこみとアニメーション
第６回　３DCG に挑戦（１）
第７回　３DCG に挑戦（２）
第８回　音声の録音と編集（１）
第９回　音声の録音と編集（２）
第10回　MIDI による音楽の作成
第11回　音声と MIDI のミキシング
第12回　動画の編集
第13回～第15回　作品制作（最終課題）

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
作品制作を楽しみながら、知識が身につくような授業にしたいと考えています。

| 成績評価方法 | ①「受講態度」: 各回の練習の提出状況により評価　②「課題」: 練習を応用した各自の小品の提出状況により評価　③「最終課題」: 各回の知識を組み合わせた総合作品により評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | プリントを配布します。 |

| 授　業<br>コード | 1084<br>1186 | 科目名 | マルチメディア応用Ａ　マルチメディア応用（１）<br>Flash アニメーション制作 | 担当者 | 嶋田　理博 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
Adobe Flash を使ったアニメーションの制作を通じて、マルチメディア作品制作の基礎を学びます。Adobe Flash は、画像や文字、音声、動画など様々なコンテンツを組み合わせ、アニメーションやインタラクティブなウェブページを制作するツールとして、広く普及しているソフトです。

**【到達目標】**
Adobe Flash を使って、ストーリーのあるアニメーションを制作することが出来るようになる。

**【授業計画】**
①　講義ガイダンス、Flash の概要
②　描画ツールの使い方
③　パラパラマンガを作る（フレームアニメーション）
④　課題制作（１）
⑤　コマとコマの間をつなぐ（モーショントゥイーン）
⑥　２つ以上の物を動かす（レイヤー）
⑦　場面を転換する（シーン）
⑧⑨課題制作（２）
⑩　音をつける、声をあてる
⑪　アニメーションの表現を学ぶ
⑫　作品を構想する（絵コンテ）
⑬　作品を公開する（パブリッシュ）
⑭⑮課題制作（３）

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
アニメーションを制作するには、日常の観察や発想が重要です。
人間の動き、動物の動き、機械の動きなど、ふだんから観察する目を養いましょう。

| 成績評価方法 | 毎回の作業内容の提出（30点）、課題制作（70点）の合計点で評価します。５回欠席した人は「不可」です。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 教材資料を配付します |

| 授　業<br>コード | 1085<br>1188 | 科目名 | ホームページ作成演習<br>自分を表現し、書く力をつける | 担当者 | 嶋田　理博 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
ホームページ制作ソフト「KompoZer」、グラフィックソフト「GIMP」などを使って、ホームページ制作を実習します。
各自がオリジナルなホームページを制作し、学内ネット上で公開します。

**【到達目標】**
自分の体験や考えをホームページの形にまとめて公開できるようになる。
画像データやインターネットの仕組みを理解する。

**【授業計画】**
①　講義ガイダンス、KompoZer を使ってみる
②　文字の色・スタイルを変える
③　ページをレイアウトする
④　ページとページをリンクでつなぐ
⑤　イラストを描いて貼り付ける
⑥　制作するホームページを企画する
⑦　アニメーション画像を制作する
⑧　画像データの仕組みを学ぶ
⑨　携帯電話・スマートフォンで撮った写真を利用する
⑩　写真を加工する
⑪　オリジナルロゴをデザインする
⑫～⑮ホームページ制作作業、講評

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
ウェブサイトや本に書いてあることを写すのではなく、自分にしか書けない体験や考えを書くことを重視します。

| 成績評価方法 | 制作物（80点）、平常点（20点）の合計点で評価します。５回欠席した人は「不可」です。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 教材資料を配付します。 |

| 授　業<br>コード | 1086<br>1189 | 科目名 | プレゼンテーション演習<br>自分を表現し、話す力をつける | 担当者 | 嶋田　理博 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
プレゼンテーションソフト PowerPoint を使ってスライド資料を作成する方法、効果的なプレゼンテーションをするための技術について学びます。学期の最後に１人10分間ずつのプレゼンテーションを実践します。

【到達目標】
プレゼンテーション（口頭発表）のための資料をパソコンで作成する技術を身につける。
自分の意見を的確に表現し、聞き手に効果的に伝えられる能力を身につける。

【授業計画】
①内容を箇条書きにまとめる
②資料のデザインや配色を考える
③写真やイラストをレイアウトする
④図を使って説明する
⑤表やグラフを使って説明する
⑥自分の主張したいことをまとめる
⑦聞き手が納得する理由や方法を考える
⑧裏付けとなるデータや事例を調べる
⑨話の組み立てを考える
⑩要点を簡潔にまとめる
⑪分かりやすい資料作りや表現を考える
⑫聞き手を引き込む話し方を考える
⑬発表準備作業
⑭発表リハーサル
⑮発表実習と講評

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
論理的な考え方・話し方を身につけ、大学生活はもちろん、就職活動やその後の人生でもぜひ活用しましょう。

| 成績評価方法 | プレゼンテーション実技（80点）、平常点（20点）の合計点で評価します。５回欠席した人は「不可」です。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 教材資料を配付します。 |

| 授　業<br>コード | 1087～1089<br>1193～1195 | 科目名 | データベース初級 | 担当者 | 寺田　亜佐 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
データベースの概念を知り、リレーショナルデータベースシステムの基本操作を身につける。

【到達目標】
まったくの初心者がデータベースを利用・作成する基本的能力を身につけることが目標です。

【授業計画】
データベースの利用・作成について基本的なことがらを、ゆっくりじっくり学びます。
使用するソフトウェアは、Microsoft Access です。
第１回　　　　：オリエンテーション、データベースとは
第２回～第３回：Access の基本操作
第４回～第６回：データベースとテーブルの作成
第７回～第８回：フォームの作成と編集
第９回　　　　：レポートの作成と編集
第10回～第12回：クエリの作成
第13回～第14回：総合練習問題
第15回　　　　：期末試験

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
受講者は、Windows および文字入力の基本、ファイル操作の基本を習得しておいてください。
技能の習得には、毎回の授業出席が欠かせません。
また、テキストを毎回必ず持参してください。

| 成績評価方法 | 学期末には、実技試験を実施します。評価は、試験の結果だけではなく、受講態度、授業への取り組み姿勢、提出物等も勘案し、総合的に判断します。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | Microsoft Access2010 セミナーテキスト基礎（日経 BP 社）<br>このテキストは、必ず購入してください。 |

| 授業コード | 1090<br>1196 | 科目名 | データベース中級 | 担当者 | 寺田　亜佐 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
リレーショナルデータベースシステムの発展的知識および操作技能を身につける。

**【到達目標】**
「データベース初級」の学習を発展させ、Access をより高度に活用できるようになることが目標です。

**【授業計画】**
「データベース初級」の内容を踏まえて、Access のより高度な機能について学習します。受講条件は「データベース初級」の単位取得者、あるいはそれと同等のレベルに達している人です。
第１回　　　　：オリエンテーション、テーブルの正規化
第２回～第３回：リレーションシップの作成
第４回～第６回：クエリ（クエリでの集計、不一致／重複クエリ、アクションクエリ）
第７回～第８回：フォーム
第９回～第10回：レポート
第11回　　　　：マクロ
第12回　　　　：Access の便利な活用
第13回～第14回：総合練習問題
第15回　　　　：期末試験

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
まったくの初心者は、必ず先に「データベース初級」を受講してください。中級を先に受講することは、お勧めできません。技能の習得には、毎回の授業出席が欠かせません。また、テキストを毎回必ず持参してください。

| 成績評価方法 | 学期末には、実技試験を実施します。評価は、試験の結果だけではなく、受講態度、授業への取り組み姿勢、提出物等も勘案し、総合的に判断します。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | Microsoft Access2010 セミナーテキスト応用（日経 BP 社）<br>このテキストは、必ず購入してください。 |

| 授業コード | 1091<br>1198 | 科目名 | デジタル画像処理<br>デジタル画像の理解と活用 | 担当者 | 山城　稔暢 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
デジタル画像の仕組みや扱い方を理解して、デジタル画像を10倍活用しましょう。

**【到達目標】**
フリーソフトでありながら多機能な GIMP（ギンプ）を使って、画像の修正・加工から製作までを学んでいきます。

**【授業計画】**
1. デジタル画像の仕組み。画像の見かけの大きさと本当の大きさ。ファイルサイズ。解像度。
2. 画像処理ソフトの使い方① ブラシと選択・塗りつぶしの使い方。
3. 画像処理ソフトの使い方② レイヤーを使った画像の部品化。
4. 画像処理ソフトの使い方③ デジタル画像の２つの表現方法。ベクタとラスタ。
5. 画像処理ソフトの使い方④ ベクタ系描画ツールの使い方。テキストとパス。
6. デジタル写真をきれいに見せる。解像度、明暗・コントラスト・色調の補正。
7. 課題１ デジタル写真の修整① アスペクト比について。トリミングと解像度の調整。レベル補正。
8. 課題１ デジタル写真の修整② トーンカーブと色調補正。傷・汚れの修正。
9. 合成写真（コラージュ）の作り方。自由選択とコピー・貼り付けの応用。
10. 課題２ 合成写真の制作① 素材集めと画像サイズの調整
11. 課題２ 合成写真の制作② 切り抜きと貼り付け
12. 下絵をもとにイラストを作る（トレース）。パスを使った輪郭書きと色塗り。レイヤの活用。
13. 課題３ 下絵からイラスト作成① 素材選びとイラスト製作
14. 課題３ 下絵からイラスト作成② 陰影をつける。
15. アニメーションの仕組み。簡単な gif アニメの制作。

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
デジタル技術の普及により画像処理は手軽になった反面、いい加減な画像も多く目に付くようになりました。日々の学習や観察を通じて正しい審美眼を磨いてください。

| 成績評価方法 | 受講態度７割、課題３割です。<br>ただし、課題の理解度が不十分な場合、受講態度が十分であっても不合格になることがあります。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 特にありません。 |

| 授業コード | 1092 | 科目名 | プログラム演習 | 担当者 | 渡辺　卓也 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
プログラム作りの体験を通して、コンピュータの動作のしくみを考える力をやしないます。

**【到達目標】**
①コンピュータが動くしくみの基本を理解している。
②人間とコンピュータの情報処理の違いを体得し、人間にとって使いやすいプログラムとはどのようなものかを考える力を培う。

**【授業計画】**
第１回　プログラム言語 Java について
第２回　プログラムの作成手順
第３回　変数（１）
第４回　変数（２）
第５回　キー入力
第６回　条件分岐（if）
第７回　くり返し（while）、条件分岐（switch）
第８回　くり返し（for）
第９回　配列とくり返し
第10回～第12回　アプレット入門
第13回～第14回　応用プログラム
第15回　まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
コンピュータの操作について、特に知識は必要としませんが、プログラム作成においては文字入力（英語）が基本になりますので、アルファベットでのキーボード入力には慣れている方がよいでしょう。

| 成績評価方法 | ①「受講態度」: 各回の例題の理解度を評価　②「課題」: 例題の応用としての課題の提出状況により評価<br>③「最終課題」: 各スキルを組み合わせた総合的プログラムにより評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | プリントを配布します。 |

| 授業コード | 1093 | 科目名 | 総合情報演習 A | 担当者 | 渡辺　卓也 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
情報処理に関するさまざまな知識・技術を応用して、実用的な作品やプログラムなどを制作します。

**【到達目標】**
①コンピュータを使用して作品を作るためのいくつかの知識・技術を身につける
②グループで共同制作、発表を行うためのノウハウを習得する

**【授業計画】**
第１回～第３回　グループ分け・計画づくり
第４回～第13回　作品制作作業
第14回　発表準備
第15回　作品発表

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
グループでの共同制作が原則となります。

| 成績評価方法 | ①「受講態度」: 各回の作業報告書の提出状況により評価<br>②「作品発表」: 作品の完成度、発表内容の完成度、貢献度などにより総合的に評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 必要な資料は適宜用意します。 |

生活学科 専門教育科目

| 授業コード | 1094 | 科目名 | メンタルヘルス<br>人の心の特徴を知る | 担当者 | 國宗　多恵 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
身体の健康ばかりでなく、心の健康への関心が高まっている。
身近な病気について理解する。

【到達目標】
ストレスとは何か、正しい知識を持つ。
DVDを通して、日常生活と心理のつながりに気づく。

【授業計画】
第1回　授業ガイダンス
第2回〜第5回　ストレス
第6回〜第10回　心の病気
第11回〜第14回　人の特性
第15回　試験

| 成績評価方法 | 受講態度と試験で評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | なし |

| 授業コード | 1095 | 科目名 | ヘルスケア<br>人が健康に生きる | 担当者 | 中島　佳代子 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
様々な因子と健康について学びQOL（生活の質）の向上について考える。

【到達目標】
健康に生きるとはどういうことかを理解する。
自分の健康を自分の心と知識でつくる。

【授業計画】
第1回　健康について・ライフスタイルと健康
第2回　メタボリックシンドローム・肥満
第3回　食生活と健康・運動と健康
第4回　喫煙・アルコール
第5回　薬物乱用
第6回　性感染症
第7回　メンタルヘルス・ストレスと健康
第8回　生活リズム・睡眠と健康
第9回　生活環境・住環境・水・化学物質
第10回　放射線・紫外線
第11回　感染症
第12回　加齢・糖尿病
第13回　がん・心疾患・脳卒中
第14回　腰痛・骨粗鬆症
第15回　試験

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
知りたいことがあれば何でも質問して下さい。共に探究していきましょう。

| 成績評価方法 | 筆記試験 |
|---|---|
| テキスト参考書 | プリントのみ、参考書：基礎としての健康科学（大修館書店）、テキスト健康科学（南江堂）、The State of Health Atlas（Diamuid O'Donovan 著） |

| 授業コード | 1096・1204<br>1206 | 科目名 | ピアノA、C<br>ピアノ実技 | 担当者 | 松井　春枝 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
ピアノに親しみ愛着をもって、将来も長くピアノを弾き続ける人になるための基礎を学んでいく。

**【到達目標】**
ピアノによって自己を表現できる人になること。

**【授業計画】**
第１回　授業ガイダンス　　ピアノを弾くための姿勢を学ぶ。
　　　　これから学んでいく曲を、個別に相談して決定する。
第２～14回　各学生の個人レッスン
　　　　レッスン以外の時間は練習室で練習する。
　　　　予習・復習をくり返して、どんどん新しい曲が学べるように各人努力しましょう。
第15回　受講生全員の前で１人ずつ、学んだ楽曲を演奏する。

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
レッスン受講のためには、毎日一定時間練習すれば上達が期待できる。

| 成績評価方法 | 毎回の受講態度と実技試験 |
|---|---|
| テキスト参考書 | トンプソン現代ピアノ教本、バーナムピアノテクニック等、受講曲の楽譜は各自で用意すること。 |

| 授業コード | 1097・1205<br>1207 | 科目名 | ピアノB、D<br>ピアノの実技 | 担当者 | 松井　春枝 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
ピアノが身近な楽器として、常にピアノを弾いて練習の楽しさを知ることによって、自分らしい演奏ができるようになるよう指導していく。

**【到達目標】**
ピアノを弾くことによって、自己と向き合って、よい音楽を奏でる喜びを知ること。

**【授業計画】**
第１回　ピアノ演奏のための体の使い方の説明
　　　　学ぶ楽曲を各人と相談の上、決定する。
第２～14回　各学生の学ぶ楽曲を、それぞれのレベルに相応した指導を行っていく。
　　　　レッスン以外の時間は、練習室で練習しておくこと。
　　　　又、他の受講生のレッスンを聴き、自分の演奏に役立てる。
第15回　今まで学んできた楽曲を全員の前で演奏する。
　　　　他の受講生の演奏については、よい演奏が聞きとれる耳を育てること。

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
実技レッスン受講のため、毎日一定時間ピアノの練習をすることが好ましい。
そうすれば、上達することができる。

| 成績評価方法 | 授業時の態度、実技試験 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 前期授業と同じテキスト、（つづいて練習）受講曲は各自で用意すること。 |

生活学科
専門教育科目

| 授業コード | 1098・1099<br>1208・1209<br>1210・1211 | 科目名 | ボーカルA、B、C、D | 担当者 | 片山　優美 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
歌を歌うための正しい呼吸法、発声法、発音などを身につけ、個々の歌唱力を養います。
ゴスペルを中心としたレパートリーで、アンサンブルにも取り組みながら、身体を使って実践的に演奏表現を学びましょう。

【到達目標】
一人一人がしっかりと実力を身につけ、アンサンブルにおいてしっかりと発揮できること。

【授業計画】
【前期】A・C
第１回　ガイダンス。姿勢、呼吸法の練習、簡単な発声練習。
第２回　ボイストレーニング（ブレスコントロール、ロングトーン、スタッカート等）
　課題曲①配布
第３～７回　引き続きボイストレーニング。課題曲①練習
第８回　課題曲②配布
第９～13回　ボイストレーニング及び課題曲練習。
第14回　前期試験準備
第15回　前期試験
【後期】B・D
第16回　姿勢、呼吸法、発声などおさらい。課題曲③配布。
第17～20回　ボイストレーニング及び課題曲練習。
第21回　課題曲④配布。
第22～28回　ボイストレーニング及び課題曲練習。
第29回　後期試験準備
第30回　後期試験
[授業内容の進捗等によって、課題曲数や内容の変更あり]

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業内容を振り返り、復習、練習することが上達の近道。またアンサンブルにおいては皆と協力し、共同作業であることを意識しましょう。その上で楽しくパフォーマンスすることを体験してください。

| 成績評価方法 | 受講態度、演奏表現など総合的に判断する。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 特になし。 |

| 授業コード | 1100・1212<br>1214 | 科目名 | アンサンブルA、C | 担当者 | 岡本　久 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
自分の所有する楽器をはじめ、ピアノ、ボーカル、学校にある打楽器や電子楽器などにより参加するアンサンブル演奏。クラシックからポップス系のまで幅広い音楽演奏を通して、アンサンブルの楽しさを体験し、演奏の向上を目指す。なお、「アンサンブルA」と「アンサンブルC」は合同授業となります。

【到達目標】
①演奏者の一員としてアンサンブルを楽しむ。
②自身の演奏力や表現力を身に着ける。
③協調性、責任感を担えるようにする。

【授業計画】
第１回　　：授業ガイダンス、楽器体験等
第２～７回：さまざま楽譜を用いたアンサンブル練習
第８～14回：発表に向けた曲の練習（パート練習および合わせ）
第15回　　：発表
※前期末頃にイベントを計画し、他のいくつかの授業とともに発表を行う予定です。リハ・本番になど授業日と振り替えて行いますので、上記計画は一応の目安です。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
手持ちの楽器があればそれで参加できます。またピアノ、ボーカル演奏での参加も可能です。楽器がない場合でも、学校にあるいくつかの打楽器や吹奏楽器、電子楽器などで演奏参加することができます。

| 成績評価方法 | 受講態度、取り組み姿勢による総合評価。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 配布楽譜等 |

| 授業コード | 1101・1213<br>1215 | 科目名 | アンサンブルB、D | 担当者 | 岡　本　　久 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
自分の所有する楽器をはじめ、ピアノ、ボーカル、学校にある打楽器や電子楽器などにより参加するアンサンブル演奏。クラシックからポップス系のまで幅広い音楽演奏を通して、アンサンブルの楽しさを体験し、演奏の向上を目指す。なお、「アンサンブルB」と「アンサンブルD」は合同授業となります。

【到達目標】
①演奏者の一員としてアンサンブルを楽しむ。
②自身の演奏力や表現力を身に着ける。
③協調性、責任感を担えるようにする。

【授業計画】
第１回　　：授業ガイダンス、楽器体験等
第２～７回：さまざま楽譜を用いたアンサンブル練習
第８～14回：発表に向けた曲の練習（パート練習および合わせ）
第15回　　：発表
※後期末頃にイベントを計画し、他のいくつかの授業とともに発表を行う予定です。リハ・本番になど授業日と振り替えて行いますので、上記計画は一応の目安です。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
アンサンブルＡ／Ｃ同様、手持ち楽器、ピアノ、ボーカル、学校にある打楽器や吹奏楽器、電子楽器などで演奏参加することができます。より多くの経験と技術を身に着けるため前期・後期とも履修することを勧めます。

| 成績評価方法 | 受講態度、取り組み姿勢による総合評価。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 配布楽譜等 |

| 授業コード | 1102 | 科目名 | 音と生活 | 担当者 | 岡　本　　久 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
普段何気なく聞いている身の回りの音についてよく知ることは、健康的で豊かな生活の向上にもつながり、音や音楽をより楽しく味わえる能力の育成、さらには音楽の演奏や制作、舞台などでの音の演出にも役立つものとなる。この授業では音の様々な事例や現象の紹介、フィールドワークなどを通じて音の面白さ、大切さを伝える。

【到達目標】
①音についての観察力、さまざまな視点でとらえる力を身につける。
②身近な生活環境における音について注視し、保全や改善等について考えられるようになる。
③音楽の演奏や制作、舞台などでの音の演出をはじめ、音の知識を自身の活動に生かすことができる。

【授業計画】
第１回　　：授業ガイダンス
第２～12回：音や音楽にまつわる様々な面白い事例や不思議な現象などを具体的に紹介。
　　　　　　期間中数回、学校周辺にフィールドワークを行い音の観察・録音記録活動等を行う。
　　　　　　音の性質や特徴についての科学的分析研究方法の紹介や、パソコンを用いた演習なども行う。
第13～14回：課題として、定められたテーマをもとに各自で身近な音の調査・研究を行い、まとめる。
第15回　　：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
身近な生活環境の音について観察し、考える力を養う数少ない機会です。特に音楽・舞台コースの学生やコース科目に興味ある学生には、この授業を履修することを勧めます。

| 成績評価方法 | 受講態度、取り組み姿勢、課題等による総合評価。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 配布資料、オンラインデータ等 |

| 授業コード | 1103<br>1216 | 科目名 | 作曲・アレンジ | 担当者 | 岡本　久 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
音楽の作り方やアレンジについての総合的学習。コード進行や和声法などの基本を学び、旋律の作り方や伴奏付け、楽器の展開（アレンジ）などについても幅広く学習する。パソコン上で楽譜ソフトを用いれば音楽をシミュレーションできるため、それらも活用しながら、より実践的かつ効率的な音楽制作ができるよう指導する。

**【到達目標】**
①音楽を作る喜びや楽しさを知る。
②オリジナル曲の制作や既存の曲のアレンジができるようになる。
③舞台や映像、作品など様々な場面に役立つ音楽づくりが行える。

**【授業計画】**
第１回　　：授業ガイダンス
第２～８回：音楽理論（楽典）の基礎的学習
　　　　　　コードや和声法など作曲の基本知識および楽譜ソフトとアレンジの学習。
第９～14回：作曲に関する様々な知識や方法の学習、およびオリジナル曲の作曲（課題）
第15回　　：まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
音楽を作ることは難しい面も多々ありますが、少しでもできるようになると、音楽活動を始め舞台、映像などでも様々な場面で適切に音楽をつけ、自身のいろいろな可能性を広げていくことができます。

| 成績評価方法 | 受講態度、取り組み姿勢、課題等による総合評価。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 配布資料、コード進行表等 |

| 授業コード | 1104<br>1218 | 科目名 | コンピュータ・ミュージック<br>コンピュータ・ミュージックＢ | 担当者 | 泉川　秀文 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
今、社会ではクリエイティブな人材が求められています。この授業では、現代の音楽制作の現場・スタジオに欠かせないコンピュータを使って、打ち込み（MIDI）による作曲や編曲など、「音づくり」に関する入門的な学習をおこないます。また、現代の音楽制作のプロセスを知り、追体験することで、音楽を生み出す楽しみを知り、創造力・感性を磨きます。

**【到達目標】**
・MIDI シーケンス（打ち込み）ソフトを用いて楽譜からコンピュータ上に音楽を再現する。
・音楽制作現場で利用されている DTM（デスクトップ・ミュージック）の基礎技術を身につける。
・ボーカロイドやその他ソフトを用いてオリジナル曲の作曲や編曲に挑戦し、創造力・クリエイティビティを養う。

**【授業計画】**
第１回－２回：『打ち込みの基礎』…　MIDI 制作のための基礎知識の習得
第３回－６回：『ソフト操作の習得』…　MIDI シーケンスソフトの基本操作の習得
第７回－14回：『課題制作』…　打ち込み・ボーカロイドによる音楽の再現、およびオリジナル曲の制作
第15回　　　：まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
パソコンを使った音楽制作の入門的な指導を行っていきますので、音楽に関してまったくの初心者でも問題ありません。毎回の学習を楽しみながらしっかり積み重ねていくことが大切です。

| 成績評価方法 | 受講態度、取り組み姿勢、課題提出内容等による総合評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 「ミュージッククリエーターハンドブック」MIDI 検定公式ガイド、オンラインマニュアル等 |

| 授業コード | 1105<br>1219 | 科目名 | サウンド・デザインA | 担当者 | 泉川　秀文 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
コンピュータを使って音を加工・編集し、音楽・映像作品、舞台等で用いられる音響効果・演出等のスタジオ編集に挑戦する実習授業です。今日の音楽制作業務には欠かせない音声編集ソフトウェア（DAW）を使って、サウンドアート作品の制作や、映像に音をつけてゆくMA（マルチオーディオ）作業等をおこない、自身の音感性を磨きます。

【到達目標】
・コンピュータを用いたサウンドトラック制作・音声編集の基本的知識と技術を習得する。
・オリジナルのサウンドアート作品の制作やMA作業を通して、スタジオやポストプロダクション等、音楽の制作現場について理解する。
・21世紀、これからの人材に求められる創造性、クリエイティビティを磨く。

【授業計画】
第１回　：授業解説・オリエンテーション
第２回～５回：『ソフトの操作』…　音声編集ソフトウェア（DAW）の基本操作およびエフェクトの習得
第６回～14回：『課題制作』…　各種テーマにもとづく演習とサウンドアート作品の制作、およびMA実習
第15回　：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
まずは音声編集ソフトウェア（DAW）の使い方に慣れましょう。音楽の知識、経験は問いません。音楽や音を自由に扱うことができるテクノロジーに触れ、サウンドデザインを通して自分の感性を磨いてください。

| 成績評価方法 | 受講態度、取り組み姿勢、課題提出内容等による総合評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 配布資料等 |

| 授業コード | 1106<br>1220 | 科目名 | サウンド・デザインB | 担当者 | 泉川　秀文 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
コンピュータを使って音を加工・編集し、サウンドアートや映像作品、舞台等で用いられる音響効果・演出等のスタジオ編集作業に挑戦します。今日の音楽制作業務には欠かせない音声編集ソフトウェア（DAW）を使って、音風景作品の制作や、ラジオCM制作プロジェクト等の実習をおこないます。

【到達目標】
・コンピュータを用いたサウンドトラック制作・音声編集の基本的知識と技術を習得する。
・オリジナルの音風景作品の制作やラジオCMづくりを通して、スタジオやポストプロダクション等、音楽の制作現場について理解する。
・21世紀、これからの人材に求められる創造性、クリエイティビティを磨く。

【授業計画】
第１回　：授業解説・オリエンテーション
第２回～４回：『ソフトの操作』…　音声編集ソフトウェア（DAW）の基本操作の習得
第５回～14回：『課題制作』…　音風景作品の制作、およびラジオCM制作プロジェクト
第15回　：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
まずは音声編集ソフトウェア（DAW）の使い方に慣れましょう。音楽の知識、経験は問いません。音楽や音を自由に扱うことができるテクノロジーに触れ、自分の感性を磨いてください。

| 成績評価方法 | 受講態度、取り組み姿勢、課題提出内容等による総合評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 配布資料等 |

| 授業コード | 1107<br>1221 | 科目名 | レコーディング | 担当者 | 泉川　秀文 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
音楽制作に不可欠な「レコーディング」について、ヴォーカル・ピアノ・ギター等を取り上げ、実践的な録音演習をおこないます。実際にレコーディングスタジオで使用されているプロ仕様の機材を用いながら、録音エンジニアのテクニックやノウハウを体験学習します。

【到達目標】
・レコーディングに関する技術やノウハウを習得し、自身の音楽活動や様々な仕事、音楽の楽しみの幅を広げる。
・プロ仕様の音響機材に触れ、レコーディングスタジオ等、制作現場の仕事のクオリティを知る。
・さまざまな音を録音する面白さを通して、身近な音を手軽に録音・編集できる方法を身につける。
・商品として流通している音楽の制作プロセスを知り、音楽産業の流れをつかむ。

【授業計画】
第１回　　　：授業ガイダンス
第２回－４回：レコーディングの基礎知識。マイク、ミキサー等、機材の解説や使い方、特徴の理解。
第５回－８回：さまざまな音の録音と編集、コンピュータを用いたミックス、トラックダウン作業の解説、実習。
第９回－14回：与えられた課題により録音・スタジオ編集実習。WebやCDなど音楽の流通の仕組みについての知識の習得。
第15回　　　：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
今の時代、誰でもパソコン１台で本格的な録音や編集がおこなえます。しかし、ちょっとしたノウハウやテクニックは長年の経験によるものです。音楽の経験は問いません、まずは周りの音に耳を澄まし、マイクを向けてみましょう。

| 成績評価方法 | 受講態度、取り組み姿勢、課題制作等による総合評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 配布資料等 |

| 授業コード | 1108<br>1222 | 科目名 | ステージ音響Ａ | 担当者 | 泉川　秀文 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
大道具や小道具、美術や演出、照明や音響まで、ひとつの「舞台」を築くためには様々な“裏方”の活躍が存在し、それらスタッフの“ウデ次第”でその舞台は良くも悪くもなります。この授業では特に“音響業務”を行う上で身に付けておかなければならない「現場の音響スタッフのノウハウ」を実践的体験学習から習得します。

【到達目標】
・音響テクニックの基本となるケーブル巻き（８の字巻き）から始まり、スピーカーやマイクの取り扱い方、ミキサー操作、CDや効果音の扱いまで、一連の音響業務を幅広く習得する。

【授業計画】
第１回　　　：オリエンテーション
第２回－６回：音響機器・ケーブル等の基本的な扱い方、PAの基礎知識、５号館ホール設備の紹介
第７回－14回：各音響機器（マイク、ミキサー、パワーアンプ、スピーカー等）の詳細解説と操作実習
第15回　　　：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
この授業ではステージの“舞台裏”で活躍する「音響スタッフ」の知識やノウハウを学びます。音響技術は頭と体をバランス良く使う仕事です。一連の作業の流れから積極的に学習しましょう。

| 成績評価方法 | 受講態度、取り組み姿勢、課題提出内容等による総合評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 配布資料等 |

| 授業コード | 1109<br>1223 | 科目名 | ステージ音響Ｂ | 担当者 | 泉川　秀文 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
大道具や小道具、美術や演出、照明や音響まで、ひとつの「舞台」を築くためには様々な“裏方”の活躍が存在し、それらスタッフの“ウデ次第”でその舞台は良くも悪くもなります。この授業では特に“音響業務”を行う上で身に付けておかなければならない「現場の音響スタッフのノウハウ」を実践的に学習し、ステージ音響が社会の中でどのような役割を担っているか体験してゆきます。

**【到達目標】**
・音響業務の基本となるケーブル巻きからスピーカーやマイクの取り扱い方まで一連の音響技術をより深く学習する。
・舞台表現の演出に欠かせないPA（拡声）やSR（サウンド補強）などエンジニア専門技術の体験的学習をおこない、学内・学外イベント等で音響スタッフとして活躍するための基礎知識を習得する。

**【授業計画】**
第１回　　　：オリエンテーション
第２回－６回：マイク、ミキサー、スピーカーなど小規模PAのための基礎・応用知識、セッティング図ブロック図等各種音響資料の作り方
第７回－14回：様々ライブを想定した音響セッティング演習、演習課題（模擬ライブのPA運営）
第15回　　　：まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
この授業ではステージの“舞台裏”で活躍する「音響スタッフ」の知識やノウハウをより実践的に学びます。音響技術は頭と体をバランス良く使う仕事です。一連の作業の流れから積極的に学習しましょう。

| 成績評価方法 | 受講態度、取り組み姿勢、課題提出内容等による総合評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 配布資料等 |

| 授業コード | 1110<br>1224 | 科目名 | ナレーション演習 | 担当者 | 岡本　久 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
ナレーション全般における発声・発音の漸進的演習。司会や朗読、原稿や台本の読み上げはもとより、日常的な会話や就職面接などでも役立つような内容とし、様々な場面を想定したケーススタディを進める。また録音や録画も行い、自分の話し方や立ち居振る舞いなどを、自らが客観的に見ることができるようにする。

**【到達目標】**
①発声や発音の基本を身につける。
②話をするときの姿勢や表情、視線などコミュニケーションに有用な能力を向上させる。
③舞台演技や台本セリフをはじめ、日常会話や就職面接などにおいても気持ちの伝え方や表現方法を創意工夫を考える力をつける。

**【授業計画】**
第１回　　：授業ガイダンス
第２～12回：毎回発声練習および発声の基礎訓練。
　　　　　　発生の７つのポイント等、基本テクニックの練習。
　　　　　　ニュース、詩、エッセイ、小説、CM、台本など様々な題材によるケーススタディ。
　　　　　　案内文や自己紹介文をはじめ、自ら情報をまとめ原稿を作成、発表する練習。
　　　　　　随時、録音や録画を行い、自らを客観的に見るフィードバック学習。
第13～14回：課題として、定められたテーマにもとづき原稿をまとめ、発表を行う。
第15回　　：まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
人前での話し方や表情、姿勢、表現力を向上させ、また舞台演技やナレーションの際にも役立つ発声・発音の基本を身につけましょう。またこの授業は、後期の「ボイストレーニング」と併せて履修することを勧めます。

| 成績評価方法 | 受講態度、取り組み姿勢、課題等による総合評価。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 配布資料、台本等 |

生活学科
専門教育科目

| 授業コード | 1111・1225<br>1226 | 科目名 | ボイストレーニングA、B | 担当者 | 岡本　久 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
「ナレーション演習」の授業で行う基礎演習に加え、特に歌やリズムの練習を組み入れ、美しい声の出し方や響かせ方など、日常会話や面接の場面、舞台演技やナレーション、声楽・ボーカルにもより実践的に役立つための、幅広い実用的なトレーニングを行う。なお、ボイストレーニングＡおよびＢは合同授業となる。

**【到達目標】**
①発声や発音の基本を身につけ、姿勢や表情、視線などコミュニケーションに有用な能力を向上させる。
②声の表現の幅を広げ、様々な場面で適切に使い分けができるようにする。
③声楽やボーカル、コーラスなど、歌を歌う場面での基礎力を養い、実践に生かす。

**【授業計画】**
第１回　　：授業ガイダンス
第２～12回：毎回発声練習および発声の基礎訓練。
発生の７つのポイント等、基本テクニックの練習。
ニュース、詩、エッセイ、小説、CM、台本など様々な題材によるケーススタディ。
歌、ボーカルの基礎訓練のための楽譜を用いた練習
リズムや音程の基礎訓練のための楽譜を用いた練習
随時、録音や録画を行い、自らを客観的に見るフィードバック学習。
第13～14回：課題として、与えらえた原稿やボーカルパートを練習し、発表を行う。
第15回　　：まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
発声・発音の基礎を中心とする前期の「ナレーション演習」と併せて履修することを勧めます。また声楽やボーカル、コーラスなどで歌う人は、ＡおよびＢの両方を履修し、繰り返し訓練を続けることを勧めます。

| 成績評価方法 | 受講態度、取り組み姿勢、課題等による総合評価。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 配布資料、台本、楽譜等 |

| 授業コード | 1112・1113<br>1227・1228<br>1229・1230 | 科目名 | ダンスA、B、C、D | 担当者 | 岡本　賀洋 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
とにかくダンスを好きになってもらうこと。
そのうちに、あらゆる日常や異なった芸術との共通点やヒントに気付くでしょう。

**【到達目標】**
身体表現の可能性と、柔らかな発想力を引き出します。

**【授業計画】**
第１回　　　　：ガイダンス
第２回～第４回：体を温めて、ほぐしていきましょう。
筋力トレーニングやストレッチをして、ケガのない、強くしなやかな体作りを目指します。
第５回～第９回：リズム取りやステップの反復練習をしましょう。
第10回～第13回：実際に作品に取りかかります。踊り込みましょう。
第14回～第15回：作品の発表や総評など

以上の行程を踏み、柔軟な心と体を持って、自己から動きを作り出していきます。

| 成績評価方法 | 受講態度、授業に取り組む姿勢を見て評価します。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | なし |

| 授業コード | 1114 | 科目名 | ミュージカル演習<br>声と身体による表現 | 担当者 | 青木　耕平 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
あなたは歌・お芝居が好きですか？興味のある人は、ぜひ一緒にミュージカルを作っていきましょう。
ミュージカル　『マイ・フェア・レディ』　を題材に、自分の体と声で表現することを学びます。

【到達目標】
①聴衆や話し相手にしっかりと伝わる声を出そう
②しっかり立ち、歩き、体の動きで表現する方法を身につけよう
③劇の内容を理解し、登場人物の内面を表現できる演技・歌唱の技術を身につけよう
④仲間と協力して一つの作品（一場面）を作ろう

【授業計画】
第１回　　授業ガイダンス
第２回　　発声練習（体操・発声・発語）
第３回　　発声練習と歌唱練習
第４回　　発声練習と歌唱練習
第５回　　作品（マイ・フェア・レディ）解説と鑑賞
第６回　　作品（マイ・フェア・レディ）解説と鑑賞
第７回　　台詞の読み合わせ
第８回　　歌唱練習と台詞練習
第９回　　試演会のためのグループ分けと練習
第10回　　試演会のための練習
第11回　　試演会のための練習
第12回　　試演会のための練習
第13回　　試演会のための練習
第14回　　試演会
第15回　　反省会とまとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
とにかく恥ずかしがらずに声を出し、動いてみよう

| 成績評価方法 | ①試験（試演会）の結果　　②受講態度　　③授業への参加姿勢 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 授業で配付 |

| 授業コード | 1115・1231<br>1233 | 科目名 | 舞台演習Ａ、Ｃ | 担当者 | 岡本　久 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
演技・音響・照明などの役割を担い、協力し合いながら舞台作品の練習・発表を行う。演技・音響・照明など舞台のおもてうら全般の演習を行い、可能な限り希望する役割に応じたシナリオを制作、発表に向けて準備・練習にあたる。単に与えられたシナリオ通りではなく、自ら責任と考えを持って各自の役割を果たす指導を行う。
なお、「舞台演習Ａ」と「舞台演習Ｃ」は合同授業となります。

【到達目標】
①演技力、音響・照明技術など実践的に身に着ける。
②全員でひとつの舞台を創ることにより、協調性・責任感を養う。
③自分の新しい可能性を発見し、将来に活かす。

【授業計画】
第１回　　：授業ガイダンス
第２～４回：演技・音響・照明など各舞台の役割体験。
　　　　　　役割の希望調査、シナリオ策定。
第５～11回：随時台本を配布。
　　　　　　演技・セリフ練習、音楽・効果音等準備、照明プラン等策定、衣装・小道具等準備。
　　　　　　部分通し稽古等。
第12～14回：通し稽古、リハーサル
第15回　　：発表
※前期末頃にイベントを計画し、他のいくつかの授業とともに発表を行う予定です。リハ・本番になど授業日と振り替えて行いますので、上記計画は一応の目安です。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
演技・音響・照明について、自分のやりたいものだけでなく、あえて他の役割を担当することで、それぞれの役割の大切さや面白さなど知ることができます。また後期の「舞台演習Ｂ／Ｄ」とともに、履修することを勧めます。

| 成績評価方法 | 受講態度、取り組み姿勢による総合評価。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 配布資料等、台本等 |

| 授業コード | 1116・1232<br>1234 | 科目名 | 舞台演習Ｂ、Ｄ | 担当者 | 岡　本　　久 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
演技・音響・照明などの役割を担い、協力し合いながら舞台作品の練習・発表を行う。演技・音響・照明など舞台のおもてうら全般の演習を行い、可能な限り希望する役割に応じたシナリオを制作、発表に向けて準備・練習にあたる。単に与えられたシナリオ通りではなく、自ら責任と考えを持って各自の役割を果たす指導を行う。
なお、「舞台演習Ｂ」と「舞台演習Ｄ」は合同授業となります。

**【到達目標】**
①演技力、音響・照明技術など実践的に身に着ける。
②全員でひとつの舞台を創ることにより、協調性・責任感を養う。
③自分の新しい可能性を発見し、将来に活かす。

**【授業計画】**
第１回　　：授業ガイダンス
第２～４回：演技・音響・照明など各舞台の役割体験。
　　　　　　役割の希望調査、シナリオ策定。
第５～11回：随時台本を配布。
　　　　　　演技・セリフ練習、音楽・効果音等準備、照明プラン等策定、衣装・小道具等準備。
　　　　　　部分通し稽古等。
第12～14回：通し稽古、リハーサル
第15回　　：発表
※後期末頃にイベントを計画し、他のいくつかの授業とともに発表を行う予定です。リハ・本番になど授業日と振り替えて行いますので、上記計画は一応の目安です。

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
演技・音響・照明について、自分のやりたいものだけでなく、あえて他の役割を担当することで、それぞれの役割の大切さや面白さなど知ることができます。また前期の「舞台演習Ａ／Ｃ」とともに、履修することを勧めます。

| 成績評価方法 | 受講態度、取り組み姿勢による総合評価。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 配布資料等、台本等 |

| 授業コード | 1117 | 科目名 | 音の感性心理学 | 担当者 | 河　瀬　　諭 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
音を聞くとき、我々のこころでは何が起こっているのだろうか。音の連続が音楽として聞こえるのはなぜだろうか。本授業では、このような疑問について感性心理学の視点から概観する。そして、聞くだけでなく、演奏する立場からの知見も紹介し、音を聞き、創るこころを理解する。

**【到達目標】**
音や音楽についての心理学的知見について理解を深めるとともに、聴覚や演奏などについての理解を深める。

**【授業計画】**
第１回　オリエンテーション、音の正体：音、音楽、声
第２回　音とは何か
第３回　音の感性（１）：音の高さ、大きさ、音色
第４回　音の感性（２）：音の高さ、大きさ、音色
第５回　音から音楽へ：メロディとリズム
第６回　音楽のコミュニケーション：音楽で伝わる・伝える思い
第７回　音と視覚の相互作用：音を見ること、コンサートに行くこと
第８回　演奏不安（１）：あがりの仕組み
第９回　演奏不安（２）：あがりの仕組み
第10回　音楽を創る・演奏する（１）：作曲と演奏の心理学
第11回　音楽を創る・演奏する（２）：芸術的な演奏とはなにか
第12回　アンサンブル演奏：音を作り出す集団の成功と失敗
第13回　絶対音感：こころに刻まれた音の世界
第14回　映像と音楽（１）
第15回　映像と音楽（２）

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
授業では、視聴覚教材を用い、演習や実験なども行うため、積極的な参加を求める。受講にあたって、音楽に関する知識や経験は、問わない。

| 成績評価方法 | レポート（60点）、授業への参加度（40点） |
|---|---|
| テキスト参考書 | テキストは使用しない。 |

| 授業コード | 1118<br>2102 | 科目名 | 音楽文化史Ａ<br>ヨーロッパ・クラシック音楽史 | 担当者 | 藤井　正博 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
16Ｃから19Ｃまでのヨーロッパのクラシック音楽において新しいジャンル・タイプ・スタイルが出現してくる歴史的過程を学ぶ。

**【授業計画】**
この授業はいわゆる大作曲家や名曲の時系列的紹介とは異なり、新しいジャンル・タイプ・スタイルの出現に焦点を当てながら16Ｃから19Ｃまでのヨーロッパのクラシック音楽の歴史を描いてゆく。１回の授業で10曲程度曲を聴きながら講義を進めてゆく。授業の進度予定はおよそ以下の通りである。
第１回　　　　　オリエンテーション
第２回　　　　　中世・ルネサンス音楽
第３回～第５回　バロック音楽
第６回～第８回　古典派音楽
第９回～第13回　ロマン派音楽
第14回・第15回　総括
（最終授業時　カセット・レポート提出）

| 成績評価方法 | 最終授業時にカセット・レポートを提出してもらい、それによって評価する。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | |

| 授業コード | 1119<br>2103 | 科目名 | 音楽文化史Ｂ<br>20世紀世界の音楽史 | 担当者 | 藤井　正博 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
20Ｃ初めから1960年代までの世界の音楽の歴史を欧米日の３地域を軸に学び、それぞれの特徴的な発展の過程を理解する。

**【授業計画】**
１回の授業で10－15曲聴きながら以下のような２部構成で講義を進めてゆく。
第１回　　　　　オリエンテーション
第２回～第７回
　Part Ⅰ　20世紀前半の世界の音楽
　　１．アメリカ－ジャズ、ブルース、カントリー、クラシック、ミュージカル・映画音楽、ゴスペル等
　　２．ヨーロッパ－国別クラシック音楽、シャンソン、コンチネンタル・タンゴ等
　　３．日本－唱歌、童謡、叙情歌、日本調、外来曲等
　　４．その他の地域の音楽
第８回～第13回
　Part Ⅱ　1950-60年代の世界の音楽
　　１．アメリカ－Ｒ＆Ｂ、ロックンロール、ポップス、フォーク等
　　２．ヨーロッパ－ブリティッシュ・ロック、フレンチポップス等
　　３．日本－歌謡曲、和製ポップス等
　　４．その他地域の音楽
第14回・第15回　総括
（最終授業時　カセット・レポート提出）

| 成績評価方法 | 最終授業時にカセット・レポートを提出してもらい、それによって評価する。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | |

| 授　業<br>コード | 1120<br>2104 | 科目名 | ポップス＆ジャズ・グループ演奏 | 担当者 | 藤井　正博 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
２～５人のグループを組み、好きなポップス系曲あるいはジャズ系曲を練習し、最終授業時に発表演奏する。

**【到達目標】**
グループ演奏の楽しさと難しさを体験し、理解する。

**【授業計画】**
第１～５回　オリエンテーション、グループ分け、曲決め、パート決め、楽譜探し
　※担当パートは、ボーカル、コーラス、ピアノ、キーボード、ドラム、ギター、ベース、フルート、サックス、トランペット等々です。
第６～13回　グループ別練習
　※好きなジャンル・曲調が他の学生と合わず、グループを組めない学生は、例えば録音を利用したワンマンバンドというスタイルで一人で演奏することも可能です。
第14～15回　リハーサル・発表演奏会

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
・個々のパートの実技指導は行ないません。
・楽器パートは最低６ヶ月以上の経験が必要です。
・ピアノ、ドラム、キーボード等は貸し出しますが、ギター、ベース、管楽器等は持参が必要です。

| 成績評価<br>方法 | 受講態度、努力点、演奏点で評価する。 |
|---|---|
| テキスト<br>参考書 | |

| 授　業<br>コード | 1121<br>2105 | 科目名 | マルチレコーディング<br>個人・グループ多重録音 | 担当者 | 藤井　正博 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
マルチ・トラック・レコーダーを使った多重録音の仕組みを理解し、個人あるいはグループで、簡単な多重録音作品を制作する。

**【授業計画】**
（授業スケジュール）
第１期（第１回～第７回）：MTR ＝多重録音機の基本的な仕組みを学び、録音、再生、ミックスダウンの練習を行う。
第２期（第８回～第15回）：個人あるいはグループで簡単な多重録音作品（既存曲あるいはオリジナル）を作る。

（個人コース）
１人で多重録音作品－例えばピアノ・ボーカル、アカペラコーラス、フルート三重奏、ギター・キーボード・インスト等－を作る。作品例を思いつかない場合はカラオケを使用したボーカル録音でもよい。また、CD 等の曲をバックに利用した朗読作品でもよい。

（グループコース）
２～５人のグループ－例えばフォークデュオ、ジャズ・トリオ、ロック・バンド、ポップス・ユニット等－を組み、練習し、４本以上のマイクを使った一発録り多重録音、あるいはシンセ・キーボード等を使ったライン録り多重録音作品を作る。
※最大受講生数は個人コースのみの場合12名。グループコースがいる場合は15名程度。
※最終授業時に作品をミックスダウンした MD を提出する。

| 成績評価<br>方法 | 受講態度、努力点、作品点のトータルで評価する |
|---|---|
| テキスト<br>参考書 | なし |

| 授業コード | 1122 | 科目名 | 音楽鑑賞A | 担当者 | 藤井　正博 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
毎回10曲程度の曲を聴きながら、曲・作品および作曲家・アーティスト・グループ等の価値について考察し、理解を深める。

**【授業計画】**
第１回　ガイダンス
第２－４回　チャート・ランキングに見る日本のポップス・日本のうた
第５－７回　世代を越えるアーティスト・グループの価値－ビートルズの場合
第８－９回　時代を越える作曲家の価値－バッハの場合
第10－11回　時代を越える曲・歌・メロディ
第12－13回　世代を越える曲・歌・メロディ
第14回　世代を越える声
第15回　カセット・レポート提出

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
この授業では、通常の文字レポートではなく言葉を声で録音するカセット・レポートという形をとるので注意して下さい。

| 成績評価方法 | 提出されたカセット・レポートによって評価する。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | |

| 授業コード | 1123 | 科目名 | 音楽鑑賞B | 担当者 | 藤井　正博 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
比較鑑賞をキーワードに小テーマ毎に授業を学び、複数曲の比較鑑賞によって得られる音楽の新しい聴き方を理解する。
毎回10曲程度の曲を聴きながら小テーマに沿って、講義を進めていく。

**【授業計画】**
第１回　ガイダンス
第２－４回　アレンジ等の異なる同一曲の比較鑑賞
第５－７回　テンポや音高および強弱等の異なる同一曲・同種曲の比較鑑賞
第８－９回　ルーツ探しの複数曲比較鑑賞
第10－12回　複数の同種曲・別種曲間の継承関係の比較鑑賞
第13－14回　カセット・レポートの指導、作製日
第15回　カセット・レポート提出

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
この授業では、通常の文字レポートではなく、言葉を声で録音するカセット・レポートという形をとるので注意して下さい。

| 成績評価方法 | 提出されたカセット・レポートによって評価する。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | |

| 授業コード | 1124 | 科目名 | 海外生活文化研修 | 担当者 | 石井　冨久<br>中西　眞弓<br>本多　佐知子 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
日本の現代の生活文化に多大な影響を与えたヨーロッパの中で特に古い伝統を持つ国イタリアを訪れて、その生活文化に直接触れる。

**【到達目標】**
海外の生活文化に直接触れ、生活学の視点で日本と比較し、参考になったことを生活に活用できるようになることを目的とする。

**【授業計画】**
事前講義（集中講義６回）
　１）「ファッション」
　　・　古代ローマから現代までの服装の歴史
　　・　現代のイタリアを中心としたファッション事情
　２）「イタリアの食」
　　・　イタリア料理の特徴
　　・　イタリア料理の食材
　３）「住デザイン」
　　・　イタリアの建築とデザイン
　　・　イタリア人の生活とデザイン
現地における研修
　１）　イタリア料理の講習
　２）　美術館、博物館、建築物、遺跡などの見学

| 成績評価方法 | 研修態度、レポート |
|---|---|
| テキスト参考書 | なし |

| 授業コード | 1125 | 科目名 | 星と生活 | 担当者 | 渡辺　卓也 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
宇宙と人間との結びつきを様々な側面からとらえ、わたしたちがこの宇宙に存在することの意義を考えます。

**【到達目標】**
①人間が宇宙について考えをめぐらせてきたおおまかな歴史を理解する。
②地球に生命が存在する理由について、科学的な観点から述べることができる。

**【授業計画】**
第１回　はじめに
第２回　月と暦
第３回　星座と季節
第４回　天動説
第５回　地動説
第６回　地動説と太陽系
第７回　太陽系のすがた
第８回　太陽と発電
第９回　変動する太陽
第10回　星の一生
第11回　宇宙と生命（１）　地球という星
第12回　宇宙と生命（２）　地球外生命を探す
第13回　地球と人類の歴史
第14回　宇宙と人間
第15回　まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
特に予備知識は必要としませんが、宇宙について報道されている情報に広く耳を傾けながら、この授業を聞いてください。また、講義に関する発展課題への取り組みを重視します。

| 成績評価方法 | ①「受講態度」: 各回の授業の理解度により評価　②「課題」: 各回の授業内容の発展学習としての課題提出状況により評価　③「試験」: 重要事項の確認および総合力の評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | プリントを配布します。 |

| 授業コード | 1126 | 科目名 | 保育学<br>チャイルドライフデザインを描く | 担当者 | 向野　洋子 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
乳幼児の成長発達の状態を理解し、特質と病気の特徴・予防・看病についての方法・対策を習得する。

**【到達目標】**
・・・心から子ども達を愛することのできることを目指して・・・

**【授業計画】**
子どもを育てることってすばらしい：安心して愛情豊かに子どもを育てること。
すばらしいチャイルドライフデザインを描くために・・・
心身ともに美しいひととなるために・・・
1.　　授業の進め方の説明
2～4.　子どもを心から愛することって？乳幼児の特質
5～7.　心身ともに美しい保育者（親）とは？乳幼児の成長・発達
8.　　レポート・まとめ
9～11.　チャイルドライフデザインを描く。乳幼児の世話の仕方・基本的生活習慣・絵本作り
12～13.　小児看護
14～15.　レポートまとめ。すばらしいチャイルドライフデザインとは？

| 成績評価方法 | 受講態度を重視　　レポート　　提出物で評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 「新訂　小児保健実習」 兼松百合子他　同文書店 |

| 授業コード | 1127 | 科目名 | マンガ論<br>マンガ表現論 | 担当者 | 諸岡　知徳 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
マンガときくと趣味や娯楽と考える人が多いと思う。しかし、マンガの表現はとても複雑で興味深い点が多い。マンガという表現を読解することを通じて読むことの奥深さを知ってほしい。

**【到達目標】**
サブカルチャ―がもつ社会的な意味を知ることは社会を考えることにも通じる。また、表現の読解を行うことによって情報に対するリテラシーを高めることができる。

**【授業計画】**
第1回　　ガイダンス
第2～4回　マンガ表現にとってコマとはなにか
第5～8回　マンガのなかのことばたち
第9～11回　カメラワークとマンガ
第12～14回　マンガとキャラクター
第15回　　まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
この時間はマンガの読解を行うもので、実作、作画やシナリオの作り方などについての時間ではありません。
また、マンガだから簡単と思わないでください。

| 成績評価方法 | ①講義プリントと小課題　65％＋②レポート　25％＋③その他　10％という配分で評価します。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | テキストはない。毎時間プリントを配布します。 |

| 授業コード | 1128<br>2050 | 科目名 | 消費者問題論<br>自立した消費者 | 担当者 | 白﨑　夕起子 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
近年、サービスの多様化や情報化の急速な進展により、消費者を取り巻く環境は大きく変化し、様々な消費者問題が発生しています。まず、身近な消費者問題について考えましょう。そして、安全・安心な消費生活を営む上で必要な知識や能力を身に付け、自立した消費者になることを目指しましょう。

**【到達目標】**
①消費に関する基礎的・基本的な知識及び技能を修得する。
②消費者トラブル未然防止のための危機回避能力を身に付ける。
③消費者トラブル被害回復のための実践的な問題解決能力を身に付ける。
④高齢者等を見守るなど、消費者市民社会の一員として主体的に行動できるようにする。

**【授業計画】**
第１回　　　　：授業ガイダンス・身近な消費者問題について考える
第２回　　　　：消費者の権利、消費者市民社会（消費者基本法・消費者教育推進法）
第３回～第４回：情報化社会における消費者問題
第５回　　　　：契約の知識（民法・消費者契約法）
第６回～第８回：取引の適正化（特定商取引法・金融商品取引法）
第９回　　　　：消費者信用取引（割賦販売法、貸金業法）
第10回　　　　：表示の適正化（景品表示法）
第11回　　　　：衣・食・住の知識（家庭用品品質表示法、食品表示法、宅地建物取引業法）
第12回　　　　：製品等の安全（消費者安全法、消費生活用製品安全法、製造物責任法）
第13回　　　　：消費者庁・消費生活センターの役割
第14回　　　　：環境問題
第15回　　　　：まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
毎回の学習内容を振り返りながら、自分の消費生活（ライフスタイル）の見直しを心掛けてください。また、消費者庁や国民生活センターのホームページを閲覧したり、消費生活センター（生活情報センター）を見学してパンフレット等を入手するなどして、情報収集してください。

| 成績評価方法 | 毎回レポート提出50％、期末試験50％ |
|---|---|
| テキスト参考書 | 独立行政法人国民生活センター編集・発行「くらしの豆知識2015」。適宜プリントを配布。 |

| 授業コード | 1129<br>2051 | 科目名 | 生活経済論<br>身近な生活から経済を考える | 担当者 | 伏木　真理子 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
私たちは、今、お金で商品やサービスを買って生活しているが、当たり前と思っているこの仕組みは、どのようにしてできて来たのだろうか。そもそもお金とは何だろうか。また、様々なものにマニュアル（使用・取扱説明書）がついているが、振り返って見れば、私たちの生活には切っても切り離せない存在であるお金には、マニュアルがついていない。
この授業では、上記のような素朴な疑問からスタートして、現在、社会で起こっている種々の問題について、基礎的な経済学の理論にも触れながら、考えていく。また、その使い方によっては人を幸福にも不幸にするお金の、言わばマニュアルに当たる、お金の管理の仕方などについても解説をしていく。

**【到達目標】**
・経済社会におけるモノとお金の循環について理解する。
・自らのライフプラン（人生・生活設計）に基づき、生活資源の管理ができるようになる。

**【授業計画】**
1．オリエンテーション
2．経済の基本的問題（資源の稀少性、トレード・オフ、機会費用）
3．交換経済（社会的分業、特化、余剰生産物、市場）、貨幣経済
4．市場経済と計画経済、市場経済社会における消費者の役割、経済的投票
5．様々な決済方法（現金、プリペイドカード、クレジットカード、デビットカード、電子マネー等）
6．個人の価値観、経済的目標に基づいた主体的な人生・生活設計
7．収入・所得（職業選択、生涯所得等）、意思決定過程
8．貯蓄
9．投資（国債、債券、株式、投資信託等。株式学習ゲームも活用する。）
10. 税金
11. 保険（生命保険、医療保険、火災保険、自動車保険等）
12. 年金、相続
13. 現在の日本経済（景気循環、インフレ、デフレ、GDP など経済指標、財政・金融政策）
14. 先進国と発展途上国（南北問題）、経済成長と持続可能な経済
15. まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
毎週の課題提出は、自己管理、ひいては生活資源の管理にもつながります。

| 成績評価方法 | 定期試験 50％、課題 35％、授業への参加姿勢・受講態度 15％ |
|---|---|
| テキスト参考書 | 特になし。適宜プリント配付。 |

| 授業コード | 1130<br>2052 | 科目名 | 現代企業論 | 担当者 | 久富　健治 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
現代社会において企業（会社）とはどのような存在かを学ぶ。

【到達目標】
「企業（会社）」について、その種類や成り立ちを理解し、個人との関係、市民社会との関係、環境問題との関係など、多様な側面から考えるための基礎知識を習得する。

【授業計画】
第１回　ガイダンス「現代企業論で何を学ぶのか」
第２回　「企業（会社）」にはどのような種類があるか
第３回　株式会社の基本的性格「株主有限責任と株式自由譲渡性」
第４回　株式会社のガバナンス構造①　「所有と経営の分離」論
第５回　株式会社のガバナンス構造②　「ステイクホルダー・アプローチ」
第６回　組織と個人を考える①　「テイラーの科学的管理法の功罪」
第７回　組織と個人を考える②　「ビデオ鑑賞『モダン・タイムス』」
第８回　組織と個人を考える③　「ホーソン実験と人間関係論」
第９回　法人資本主義と企業①　「自然人と法人～法人格否認の法理」
第10回　法人資本主義と企業②　「八幡製鉄政治献金事件を題材に」
第11回　法人資本主義と企業③　「チッソ水俣病事件を題材に」
第12回　環境問題と企業①
第13回　環境経営と企業②
第14回　CSR（「企業の社会的責任」）①
第15回　CSR（「企業の社会的責任」）②

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
予習は不要だが、復習には力を入れてほしい。ノートの整理や基本用語・概念の習得に毎回１時間以上はかけること。著しい遅刻、途中退出、居眠り、私語、内職等は厳禁である。授業に集中すること。

| 成績評価方法 | ①会社の種類や株式会社の基本的成り立ちを理解しているか。 ②現代社会における法人企業の社会的意義を理解しているか。 ③CSRの基本について理解しているか。 小テスト（ミニレポートを課す場合もあり）と学年末テストによる。なお、出席はして当然なので「出席点」なるものは存在しない。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | なし |

| 授業コード | 1131 | 科目名 | 情報社会論 | 担当者 | 永井　純一 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
情報社会の進展について理解を深め、必要なメディアリテラシーを高める。

【到達目標】
テレビや携帯電話にパソコン、新聞やラジオなど、私たちの生活は数多くのメディアに囲まれ、それらを介して私たちは膨大な量の情報に接している。こうした社会はしばしば「情報社会」と呼ばれ、それは現代社会を特徴付ける大きな要因のひとつとなっている。
本講義では、過去から今日に至るまでのメディアの発展およびその研究動向を概括し、その上で今日のメディア状況、私たちの生活においてメディアが果たす役割について考え、情報社会を生きぬくための知恵や方法を身につける。

【授業計画】
１．導入
２．ウェブは本当に情報の大海か
３．ネットは自由な空間か管理された箱庭か
４．ケータイは友人関係を広げたか
５．ゲームでどこまで恋愛できるか
６．動画共有サイトでは何が共有されないのか
７．iPod はコンテンツ消費に何をもたらしたか
８．オンラインで連帯する
９．「つながり」で社会を動かす
10．ケータイで都市に関わる
11．リアルタイムにウェブを生きる
12．デジタルメディアで創作する
13．デジタルコンテンツとフリー経済を考える
14．メディア・リテラシーの新展開
15．まとめ

| 成績評価方法 | 小レポート、期末レポートによって総合的に評価する。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | |

| 授　業<br>コード | 1132<br>1133 | 科目名 | 社会とマナー | 担当者 | 兼田　裕子 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
社会人として必要なマナーや立ち居振る舞いを身に付け、働く上で必要な実践的知識を習得する授業です。就職に有利な秘書技能検定３級の取得を目標とします。秘書技能検定試験は神戸山手短期大学が準指定会場になるので、学校内で受験できます。

【到達目標】
社会人としての立ち居振る舞い、マナー、話し方を身に付ける。
秘書技能検定３級の取得。

【授業計画】
第１回目：卒業後のキャリア（仕事の仕方）をプランニング（計画）する。就職に有利な資格の秘書検定とは。
第２回目：社会人としての立ち居振る舞い、マナー、言葉遣い。
第３回目：秘書技能検定３級の問題から、必要とされる資質。
第４回目：秘書技能検定３級の問題から、企業で働く上での職務知識、一般知識。
第５回目：言葉遣い、敬語。
第６回目：マナー・接遇。
第７回目：事務処理能力①
第８回目：事務処理能力②
第９回目：秘書技能検定３級過去問題より模擬試験実施。
★⇒６月20日（土）　第106回秘書技能検定３級試験　／　試験会場は神戸山手短期大学。
第10回目：第106回秘書技能検定試験３級の答え合わせ。
第11回目：一般常識と時事。
第12回目：事務処理能力／文書作成
第13回目：マナー・接遇の実践①
第14回目：マナー・接遇の実践②
第15回目：学期末試験

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
秘書技能検定３級を前期で取得し、後期は２級を取得できるように、順序よく組み立てられた授業です。欠席すると分からなくなるので、欠席しないこと。

| 成績評価方法 | 学期末試験の成績、秘書技能検定３級の受験、受講態度 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 秘書検定３級実問題集2015年度版、新秘書特講 |

| 授　業<br>コード | 1142 | 科目名 | 生活学ゼミナール（2）<br>幅広く「食」をとらえる | 担当者 | 本多　佐知子 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
今まで学習した食のテーマから興味ある課題をみつけ、知識を深める。

【到達目標】
卒業論文にまとめる。

【授業計画】
近年、食について、話題になっていることが様々あります。
身近なところから食にまつわるテーマを捜し、調べてみましょう。
・今まで"食"に関して見聞きしたことや学んだことで関心のあること、疑問に思うことを出し合う。
（新聞記事、雑誌、本、インターネットなど）
・個人であるいはグループで調べてまとめる。
・食に関するトピックスをとりあげ話し合う。
・レポート記述。
・実習
・発表
テーマ「食生活を見直そう」
「郷土料理」
「行事食」
「ためしてガッテンを実践してみよう」
大学祭模擬店参加「ゼミ生が作った軽食や菓子販売」
「学生食堂」
「家庭料理技能検定２級・３級を目指す」
「要望に応じた調理実習」
「グレードアップ実習」

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
食コースに入り、食のカリキュラムや実習を学んできてさらに自分の興味ある・気になっている内容を深めていきましょう。実験や実習をしながら、比較検討することを積極的に提案して下さい。

| 成績評価方法 | レポート提出、発表、卒論からの総合評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | ・「食べる健康」早わかり事典（三笠書房）　・栄養と料理<br>・随時資料配布 |

| 授業コード | 1143 | 科目名 | 生活学ゼミナール（3） | 担当者 | 石井　冨久 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
自分を表現できる身近な発信メディアであるアパレルデザインについて考えてみる。

【到達目標】
ファッション関係について、調査・分析・考察・発表できる能力を身に付ける。

【授業計画】
時代の流れは、ゆとりと豊かさに満ちたライフスタイルを志向する傾向になっている。生活すべてにファッション性を持たせることにより、その人の精神的な豊かさ、生活の質が向上し、より快適な生活を送ることができる。
本ゼミでは、前半はファッションの基盤となるテキスタイル・カラーデザインについてアンケート調査や意見交換を行い、後半はさらに調査・研究を行い卒業論文にまとめる。

| 成績評価方法 | 卒業論文、発表 |
|---|---|
| テキスト参考書 | なし |

| 授業コード | 1144 | 科目名 | 生活学ゼミナール（4） | 担当者 | 岡本　久 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
音楽・舞台コース生の卒業ゼミとして、作品制作・演奏発表・パフォーマンス・演劇・論文など幅広いジャンルについて個別に希望を聞き、その実現のために個別またはグループに分け指導・アドバイスを行う。特に前期は様々な芸術分野の紹介やゼミ生同士のコミュニケーションを図り、後期は各自の制作・発表の指導にあたる。

【到達目標】
①音楽・舞台コース生として、それを締めくくるゼミにおいて、自身の出来る限り力を発揮できる取り組みを行う。
②自分にとって敢えて一歩先の目標を掲げ、その上で指導やアドバイスを受け目標達成に取り組む。
③最初から出来ないから止めて置くではなく、頑張ってやって良かったという充実感・達成感を得てもらいたい。

【授業計画】
＜前期＞
第１回　　：授業ガイダンス
第２～14回：個別相談・指導、ゼミ生同士のコミュニケーション向上等のための具体的な活動。
第15回　　：前期まとめ

＜後期＞
第１～14回：個別、またはグループによる指導、アドバイス、相談等出来うる限りのサポート。
第15回　　：発表（卒業制作発表は、別途生活学科全体の発表日時に合わせて行う予定ですので、上記はあくまでも現段階での予定として考えてください。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
自身の本当にやりたいことを忌憚（きたん）なく、希望・相談してください。また就職その他、将来に関する相談、指導やアドバイス、そして機会について、指導教員として可能な限り努めたいと考えています。

| 成績評価方法 | 受講態度、取り組み姿勢による総合評価。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 個別またはグループに対する配布資料、情報等。 |

| 授業コード | 1145 | 科目名 | 生活学ゼミナール（5）<br>化粧品・美容・健康 | 担当者 | 飯田　一郎 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
化粧・美容・生活について興味あることや日ごろ疑問に思っていることを調べ、考える。
化粧品、社会、心理、文化、トレンド、環境…など様々な話題から、テーマを設定してリサーチ（研究）に取り組んでみましょう。調べて発見したことがらを論文にまとめましょう。

【到達目標】
①情報収集から市場観察まで調査の方法を知る。
②背景・トピック・目的を考え、研究力を高める。
③考察する、分析する、報告する技術を身につける。
④ゼミのメンバーと共にコミュニケーション力を磨く。
⑤学会や企業で活躍する方々と交流することで見識を広げる。

【授業計画】
前期：化粧品や健康について関心のあることを調べ、発表し、ゼミのメンバーで議論する。
　　　文献調査や市場観察を実施する。

後期：各自興味あることを考え、テーマを設定し、調査研究を実施する。卒業論文にまとめる。

全般を通じて：化粧品科学、文献調査、市場観察、評価、実験、統計解析、プレゼンテーション、
　　　　　　　ライティングなどいろいろな方法を必要に応じて取得できるように指導します。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
ディスカッションに参加するために工夫をしてみしょう。
いろいろなデータや情報を観察したり分析してみましょう。
興味あることや日常の疑問などに取り組みましょう。

| 成績評価方法 | ゼミでの活動、ディスカッション、発表、卒論などから総合評価。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 参考書 特になし。適宜プリント配付。 |

| 授業コード | 1146 | 科目名 | 生活学ゼミナール（6） | 担当者 | 中西　眞弓 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
住まいやインテリアに関する分野の中で、一人一人が問題意識を持ち、自ら定めたテーマに取り組む。

【到達目標】
①自分自身の興味のある内容についてテーマを定め、自分で調べる「研究」を行う
②本やインターネットに掲載してあることだけでなく、自分自身で考えた内容をまとめる
③人にわかりやすく伝える

【授業計画】
第１～15回　共通のテーマを与え、それについてそれぞれが個別のテーマを設定してそれについて発表する
第16～30回　卒論に取り組む。自分の興味のあるテーマを定め、それについて調べ、まとめる。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
自分が本当に興味のある内容の方が調べていて楽しいものです。
テーマを決めるのが難しいけれど、できるだけたくさん相談してください。

| 成績評価方法 | 受講上の態度、卒業研究・卒業論文の総合評価とする。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | なし |

| 授業コード | 1147 | 科目名 | 生活学ゼミナール（7） | 担当者 | 吉　津　　潤 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
心に関する疑問や、心理学に関連したトピックスのなかから、受講生各自が興味のあるテーマについて検討する。講義では文献検索の方法、研究論文の読み方、卒業論文の書き方、心理学的調査および実験の方法などを学ぶ。その後、各自が興味のあるテーマについて実際に調査等をおこない、結果を卒業論文としてまとめる。

**【到達目標】**
心理学に関する卒業論文を作成する。

**【授業計画】**
第１回　ガイダンス
第２～４回　心理学研究論文を読む１　－論文の検索方法、論文の基本構成について－
第５～６回　心理学研究論文を読む２　－データ分析の読み方－
第７～11回　心理学研究論文を読む３　－興味のある論文の検索と内容の発表－
第12～14回　心理学論文の書き方１　－学術論文としての文章と基本構成－
第15回　（前期最終日）卒業論文計画書提出　－卒業論文のテーマを決め、計画書を作成する－
第16～19回　データの収集と分析　－テーマに沿ったデータの収集と分析の方法－
第20回　卒業論文の執筆１　－ word、excel を活用した文章の作成方法－
第21～30回　卒業論文の執筆２　－個人指導により卒業論文を完成させる－

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
卒業論文のテーマは受講生によって異なるため、個人指導を適宜行い、卒業論文を完成するように導く。

| 成績評価方法 | 授業への参加姿勢、卒業論文を総合して評価する。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 特になし。参考資料等を適宜配布する。 |

| 授業コード | 1148 | 科目名 | 生活学ゼミナール（8） | 担当者 | 渡　辺　　卓　也 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
「くらしと IT」について、調べ、考える。

**【到達目標】**
情報化社会のしくみや今後について、独自の視座を持つ

**【授業計画】**
（前期）
第１回　はじめに
第２回～第15回　ミニ発表
（後期）
第１回　後期の予定確認
第２回～第５回　卒論テーマの決定
第６回～第12回　卒論制作、提出
第13回～第14回　卒論発表総練習
第15回　卒論発表会

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
年間を通じて、情報化社会に関するテキストを選んで輪読を行い、知識を深めます。前期には、「ミニ発表」でプレゼンテーションを交代で何度か行って、調べて発表することや、人の発表を聴くことに慣れてもらいます。後期は、自分が特に関心を持っているテーマを選んで、卒業論文に仕上げます。

| 成績評価方法 | 学習態度と卒業研究の質によって評価。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | |

| 授　業<br>コード | 1149 | 科目名 | ファッションビジネス<br>ファッションビジネスとファッション | 担当者 | 三村　普久子 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
多様化した消費者の意識、価値感の違いに適応できるようにファッションビジネスの基本知識を解説する。

【到達目標】
ファッションビジネスの基礎を学び、アパレル企業に就職する有利な知識を得る。

【授業計画】
1．ファッションビジネスとは
2．ファッションビジネスの仕組み
3．ファッションの役割
4．進化するファッション意識
5．ライフスタイルとファッション感覚
6．アパレルの生産流通構造
7．小売業の多様な業態と特徴
8．次つぎと登場した新業態
9．ライフスタイルとマーケットイン
10．欠かせない市場情報の収集と分析
11．トレンド情報の収集と創造的導入
12．売場の演出で消費者にアプローチ
13．アパレル生産にかかわる産業
14．ファッション小売企業の流通機能
15．CS のマーケティング

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
日頃からアパレル商品を観察しておくこと。

| 成績評価方法 | レポート・受講態度 |
|---|---|
| テキスト参考書 | プリント配布 |

| 授　業<br>コード | 1150 | 科目名 | 化粧品の科学演習 B<br>興味、疑問にこたえる | 担当者 | 飯田　一郎 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
いろいろな化粧品のつくり方を学び、興味や疑問にこたえます。実験・実習を通じて自分に合った化粧品、理想の化粧品を探りましょう。注目商品をみる時間も設けます。最後に企画から提案までトライしてみましょう。

【到達目標】
①化粧品、肌、毛髪の知識を広げる。技術を体験する。
②科学的方法を学ぶ。
③評価技術を活用する。
④実験・実習・提案を通じて理解力、考察力、創造力を高める。

【授業計画】
第１回　　　　：序論　進め方とイントロダクション
第２回～第４回：スキンケア製品（化粧水、乳液、クリーム、洗顔、クレンジング）
第５回～第７回：ヘアケア製品（ヘアケア、ヘアスタイリング）
第８回　　　　：スキンケア・ヘアケア商品評価（春夏注目商品）
第９回～第10回：メイクアップ製品（ベースメイク、アイカラー、ポイントメイク）
第11回～第12回：メイクアップ・フレグランス商品評価（春夏注目商品）
第13回　　　　：先端技術を体験（応用編）
第14回　　　　：アイデア提案（自由演技です）
第15回　　　　：総合質疑と総評

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
使い方、つくり方を学び、感性を磨きましょう。
実験・実習・提案では、好奇心と想像力を働かせましょう。

| 成績評価方法 | ①実験・実習・ディスカッション：取り組み姿勢。②提出物（毎回）：実験内容の理解度、応用力。<br>③期末レポート：講座を通じた習熟度。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 参考書 特になし。適宜プリント配付。 |

| 授　　業<br>コ ー ド | 1157 | 科 目 名 | 食プランニング（2）<br>献立作成・食品判別実習編 | 担 当 者 | 本 多　佐 知 子 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
食プランニング（1）で学んだことを踏まえ、グループごとに1日の食事献立を作成し、食材を調達し、実習をおこなう。

**【到達目標】**
年代に応じたバランスのとれた献立をたてる事

**【授業計画】**
食品群による年齢別・性別・身体活動レベル別の食品構成にもとづいて一日の食事献立をたて、グループごとに食材の調達や選別・判別・計量・仕分けを行い、エネルギーや栄養バランスの整った献立をたてられるよう学んでいく。でき上がったテーマ別のメニューのコンテストも行ない、競い合う。
この実習では、食品の規格や表示、品質チェックなど食品判別論での履修内容・知識を生かした生きた食材選びの実際を体験し、食品を見る目を養う。家庭料理技能検定受験にも役立つ。

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
班のメンバーと相談し、協力し合う事

| 成績評価<br>方法 | 授業への取り組み、授業中の提出物やレポートにより評価 |
|---|---|
| テキスト<br>参考書 | 栄養と料理、きょうの料理　他、料理レシピ書籍 |

| 授　　業<br>コ ー ド | 1158 | 科 目 名 | 食品判別論<br>食べ物の評価や見分け方 | 担 当 者 | 原　　知　子 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
食材偽装が頻繁に起こっている中、自分自身で見分ける力をつける必要が増していますが、消費者の肉眼的な力のみで全てを見分けることは不可能です。そこで官能的に見分ける方法のみならず、食品の表示や規格、鑑別方法、鮮度判定などについて学びます。

**【到達目標】**
少なくとも1つの食材について目利きできるようになる。常にものの真贋を見極めようとする姿勢を身につける。

**【授業計画】**
食品の安全性についての不安や提供されている食品への不信感が増大している昨今では、食品を提供する立場にとっても、消費者にとっても、食品を正しく評価判別することがますます重要になっています。
評価の方法については、化学的、物理的な評価方法とならび、人間が総合的にどう評価するか、ということも重要です。そこで、官能評価の方法について学習し、さらに個々の食品についての鑑別方法や検査方法についても考えてみます。
授業（全15回）の大項目は下記のとおりです。
　Ⅰ　ものの真贋（本物と偽物）をみわけるのは難しい！
　Ⅱ　官能評価について
　　①官能評価の方法、注意点
　　②官能評価の実際
　Ⅲ　食品の評価方法
　　①化学的評価方法
　　②物理的評価方法
　　③鮮度判定
　Ⅳ　個別食品の鑑別（各食品の品質評価、規格、流通など）
　Ⅴ　食品の表示について
りんごの品種による違い、米の品種による違い、など実体験を含めて実施予定です

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
買い物をする時に、商品の表示と実質内容を見る癖をつけてみましょう。

| 成績評価<br>方法 | 授業への取り組み（出席と提出物）と大レポート（課題は例えば市場見学レポート、リンゴの品種による違いの特徴、食品の表示レポートなど、授業の進行により決定します）によって評価予定。 |
|---|---|
| テキスト<br>参考書 | 『新版　食品の官能評価・鑑別演習』　日本フードスペシャリスト協会編（建帛社） |

| 授業コード | 1159 | 科目名 | フードスペシャリスト論<br>食べ物に関するスペシャリストになってみませんか？ | 担当者 | 原　知子 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
昔、主婦はみんなフードスペシャリストでした。しかし、現在では食べ物についての知識や調理技術がそれほどなくてもなんとか食事はこなせます。ところが、キレルこども、欠食者の多さ、生活習慣病など、いろいろな問題が山積しており、本当に心身共に健康的な食生活が営まれているとは言えません。家庭での食に関する知識だけでなく、社会の中での「食」という観点から食べ物について、食生活について、考えてみましょう。

**【到達目標】**
現代の食生活を支えている社会的な側面を理解し、何が問題なのかを明確化できるようになる。
また、フードスペシャリスト資格を受験する方は資格試験に合格する。

**【授業計画】**
おもな授業項目は下記の通り。
1　昔、主婦はみんなフードスペシャリストだった－現代の食生活の特徴、戦後の食生活の変遷について
2　世界の食・日本の食－人間は何を食べてきたか、これからの食はどうあるべきか
　ライフスタイルと食生活について考える、食料の問題（自給率、フードロス、環境と食などについて）
3　時代が要請するフードスペシャリスト－フードスペシャリストの活躍現場に
4　食の消費現場と食産業
5　気になる食品－遺伝子組み換え食品、環境汚染、食品添加物、アレルギー食品など
6　食品の品質規格と表示
　表示にかかわる法律（食品添加物、アレルギー）、コーデックス規格など
7　食情報と消費者保護
　食情報の発信と受容、情報の乱用（フードファディズム、風評被害）、情報管理（JANコード、トレーサビリティシステム）、食品の安全（リスク分析、食品安全基本法、食品安全委員会）、 消費者保護の制度　など

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
食生活の現状を把握したうえで、社会全体の問題点を見極める力を持てるといいですね。

| 成績評価方法 | 授業への参加状況（出席・提出物等）、大レポートにより評価予定。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 『四訂フードスペシャリスト論』フードスペシャリスト協会　編（建帛社）、<br>参考書：『新版フードコーディネート論』『食品の安全性』いずれもフードスペシャリスト協会　編（建帛社）） |

| 授業コード | 1163 | 科目名 | 和食文化と料理 | 担当者 | 中島　光隆 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
和食を通じて日本料理の技術、素材の素晴らしさ、美味しさを学ぶ
食材の目利きについて実習する。

**【授業計画】**

| | | |
|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション　だしのとり方と種類 | 中島先生 |
| 第2回 | 野菜を切り方 | 森脇先生 |
| 第3回 | 野菜を煮る　野菜を煮る、下処理など | 川飛先生 |
| 第4回 | 魚の卸し方　二枚おろし、3枚おろし | 中島先生 |
| 第5回 | 魚を煮る　魚を煮るのに下処理など | 川飛先生 |
| 第6回 | 魚を焼く　焼き物の種類など | 小柴先生 |
| 第7回 | 蒸す　魚や野菜をを煮る下処理など | 小柴先生 |
| 第8回 | 牛肉について | 森脇先生 |
| 第9回 | 鶏肉について | 森脇先生 |
| 第10回 | 和え物について | 小柴先生 |
| 第11回 | 揚げ物　揚げ物の種類や基礎など | 川飛先生 |
| 第12回 | 寿司について | 中島先生 |
| 第13回 | 寿司について | 中島先生 |
| 第14回 | 寿司について | 中島先生 |
| 第15回 | 献立を作る | |

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**

| 成績評価方法 | 調理実習とレポート提出による評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | |

| 授業コード | 1166 | 科目名 | CAD（1）<br>コンピュータによる設計製図の基礎 | 担当者 | 井田　英石 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
コンピュータ（CAD ソフト）を用いて建築製図を行うための基本的な技術を習得する。

**【到達目標】**
建築設計図を CAD ソフト Jw_cad で描く技術を学ぶ。

**【授業計画】**
第１回　　Jw_cad の使い方
第２～３回　Jw_cad を用いた線の引き方、図形の描き方
第４～15回　建築設計図データの描き方：住宅図面のトレースを通して、CAD を用いた製図の方法を学ぶ。
（第４～７回　平面図、第８～10回　断面図、第11～13回　立面図、第14～15回　配置図）

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
授業は演習形式で行ない、各自がテキストにそって課題図面を作図する。
第１～３回目の授業でソフトの使い方や基本的な線の引き方、図形の描き方を説明するので、履修希望者は必ずこれら全てに出席すること。

| 成績評価方法 | 提出された図面による。取組姿勢を考慮する。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 『5日で学ぶ Jw_cad 4－手塚貴晴＋手塚由比の屋根の家を描く』Obra Club 著（エクスナレッジ）〔参考書〕『やさしく学ぶ Jw_cad 5』Obra Club 著（エクスナレッジ）、『Jw_cad 5徹底解説（操作編）』Jiro Shimizu, Yoshifumi Tanaka著（エクスナレッジ）、『Jw_cad 5徹底解説（リファレンス編）』Jiro Shimizu, Yoshifumi Tanaka著（エクスナレッジ） |

| 授業コード | 1167 | 科目名 | CAD（2）<br>コンピュータによる設計製図 | 担当者 | 井田　英石 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
コンピュータ（CAD ソフト）を用いて建築製図・プレゼンテーションを行うための技術を習得する。

**【到達目標】**
CAD（１）で修得した技術を用いて、より高度な建築製図の技術を学ぶ。
さらに３Dソフトの技術を修得することにより、設計提案のプレゼンテーション図面を作成する。

**【授業計画】**
第１～６回　設計製図演習などで作成した各自の提案を、CAD を用いて図面化する。
第７～12回　その図面をもとに、各自の提案を３D ソフトで立体的に表現する。
第13～15回　作成した図面や３D 画像を用いてプレゼンテーション図面を作成する。

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
授業は演習形式で行ない、各自が課題図面を作図する。
この授業を履修する者は、必ず CAD（１）の単位を修得していること。

| 成績評価方法 | 提出された図面による。取組姿勢を考慮する。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 『やさしく学ぶ Sketch up』 Obra Club 著（エクスナレッジ）〔参考書〕『やさしく学ぶ Jw_cad 5』Obra Club 著（エクスナレッジ）、『Jw_cad 5徹底解説（操作編）』Jiro Shimizu, Yoshifumi Tanaka 著（エクスナレッジ）、『Jw_cad 5徹底解説（リファレンス編）』Jiro Shimizu, Yoshifumi Tanaka 著（エクスナレッジ） |

| 授業コード | 1168 | 科目名 | 住制作演習 | 担当者 | 中西　眞弓 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
木材加工を通して、インテリアの主要材料の一つである木材の特性を知り、家具設計や家具デザインに親しむ。

【到達目標】
①木材の特性を知り、木材製品の良し悪しがわかるようになる
②大工道具の基本的な扱い方がわかる
③家具の制作や設計に興味を持ち、簡単な制作ができるようになる

【授業計画】
第１～２回　バターナイフ制作
第３～15回　インテリア小物、家具等の制作を２作品程度予定しています

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
意欲的に課題に取り組むこと。
けがをしないように、作業に集中すること。

| 成績評価方法 | 受講上の態度、作品の総合評価とする。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | なし |

| 授業コード | 1170 | 科目名 | VMD 演習<br>ショーイングディスプレイ | 担当者 | 森　由紀 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
１年次に学んだショーイングのスキル（技術）を使って、実務を意識した商業空間の商品展示の実践演習を展開します。ファッション関係（洋服、雑貨、ブライダル、化粧品）インテリア関係、スタイリストの仕事などの、目的別の演出をする事によって、やりたい仕事も明確になるかもしれません。

【到達目標】
アイテム別の商品の構成やショーイング（展示）の仕方を学び、購買につながる魅力的な企画をして、いろいろなシーン（季節演出、クリスマス、バレンタイン、母の日、ウエディング等のシーン）の演出に商品と小道具、演出物件を入れたトータル演出が出来る力をつける。

【授業計画】
１日目
　Ⅰコマー　各コマの参考画像データーを見る。置きの構成の基本をシミュレーションする
　Ⅱコマー　ウエアーと雑貨小物の置きの構成
　Ⅲコマー　布（スカーフ）を絡めた化粧品と小物の構成
　Ⅳコマー　１、ボディーを中心に、雑貨、ウエアーの置きの構成をからめて演出
　　　　　　２、ショップ演出の企画
　　　　　　※季節テーマ（クリスマス等）、ギフトテーマ（ブライダル、バレンタイン、母の日）等のテーマで企画
２日目
　Ⅰコマー　テーブルコーディネートのテーマ演出（誕生日、記念日、ブレックファースト等）
　　　　　　布でテーブルクロスをデザインして、テーブルウエアをセッティング構成
　Ⅱコマー　布でステージの背景を作り、雑貨、ウエアやスカーフのテグスワークの空間演出
　Ⅲコマー　ボディーピンワークの基本（ドレスのデザイン）のシミュレーションと実技
　Ⅳコマー　ボディーピンワークの実技
　　　　　　ショップ演出の企画用の小道具制作
３日目
　Ⅰコマー　小道具製作
　Ⅱコマー　ショップ演出の展開
　Ⅲコマー　ショップ演出の展開
　Ⅳコマー　完成したショップ演出の講評と評価

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
ディスプレイクリエイター（企画、デザイン、制作、設置、ショーイングまでのプロセスを請け負える人）の目を持って、ショーウインドウ、演劇、映像媒体、雑誌等に関心を持って、いろいろ見て下さい。

| 成績評価方法 | 各、日にちごとに、仕上がった演出作品に対して評価をします。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 検定ガイドブックを参考とします。そのつど必要な参考のプリントがあれば配布します。 |

| 授業コード | 1172 | 科目名 | 福祉住環境論 | 担当者 | 中西　眞弓 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
高齢者や障碍者を含めたすべての人に住みやすい住宅や街を考える。
「福祉住環境コーディネーター」資格の取得を目指してその内容に取り組む。

**【到達目標】**
①高齢者や障碍者が求めている住まいについて理解する
②高齢者や障碍者の特性を知る
③福祉住環境コーディネーター３級に合格する（２級受験も可能）

**【授業計画】**
第１回　なぜバリアフリー住宅なのか
第２回　日本の住環境の問題点
第３回　少子高齢化社会の現状と課題
第４回　福祉住環境コーディネーターとは
第５回　介護保険制度
第６～８回　安全快適な住まいの整備
第９～11回　バリアフリーとユニバーサルデザイン
第12回　ライフスタイルの多様化と住まい
第13回　安心して暮らせるまちづくり
第14回　高齢期の身体の変化と特定疾患
第15回　まとめ
（順番、内容は受講生により変わることがあります。）

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
資格試験のためのテキストを使用しますが、授業のみでの試験合格は難しいので、資格取得を目指す学生は、テキストを全部読む必要があります。資格試験を受験する学生は、定期試験は免除しています。

| 成績評価方法 | 提出プリント、受講上の態度、試験の総合評価とする。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 「新版　福祉住環境コーディネーター３級テキスト」東京商工会議所編 |

| 授業コード | 1173 | 科目名 | 建築材料・施工<br>建築材料の種類と性質 | 担当者 | 田中　栄治 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
様々な建築材料を適切に選択し使用するための基礎的知識を学ぶ。主に構造躯体に用いられる木材、鋼材、コンクリートを中心として学習するほか、建築各部の建築材料の種類と性質についても学ぶ。

**【到達目標】**
建築の構造及び各部に用いられる材料の種類と性質についての基礎知識を習得する。

**【授業計画】**
［１日目］建築構造材料の種類と性質について学ぶ。
第１回　建築構成部位と構造材料　建築物の構成と構造方式の各種分類、構造各要素にかかる力の種類について学ぶ。
第２回　構造材としての木材の性質　自然材としての木の性質、木材の種類と規格、構造材としての長所と短所など木材の特性について学ぶ。
第３・４回　木質材料の種類と木造構法の特徴　木質材料の種類と性質、および日本における木造構法の種類と特性を学ぶ。
［２日目］建築構造材料の種類と性質について学ぶ。
第５～８回　鋼材の種類と性質　鉄の性質、鋼材の種類と規格、構造材としての長所と短所など鋼材の特性について学ぶ。
［３日目］建築構造材料の種類と性質について学ぶ。
第９・10回　コンクリートの種類と性質　コンクリートの材料と性質、種類と規格、構造材としての長所と短所などコンクリートの特性について学ぶ。
第11・12回　鉄筋コンクリート構造の特徴　鋼材とコンクリートのそれぞれの特性を組み合わせることにより成り立つ鉄筋コンクリート構造の特徴を学ぶ。
［４日目］建築各部、特に外部に用いられる建築材料の種類と性質について学ぶ。
第13回　建築の基礎に用いられる建築材料の種類と特性を学ぶ。
第14回　屋根および建築の壁に用いられる建築材料の種類と特性を学ぶ。
第15回　建築の開口部、床および階段に用いられる建築材料の種類と特性を学ぶ。
授業は集中講義として行う。授業各日の最後にレポート課題もしくはテストを行う。
授業時間中に工場や資料館、建材ショールームなどにて、建築材料実物の見学予定である。

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
見学にはスカートやサンダル等は避け、ズボンやスニーカー等の動きやすい服装で出席すること。

| 成績評価方法 | レポート及びテストによる。受講態度を重視する。（２／３以上出席のこと） |
|---|---|
| テキスト参考書 | 『図説やさしい建築一般構造』今村仁美・田中美都　学芸出版社　〔参考書〕『構造用教材』日本建築学会編著　日本建築学会、その他、建築士・インテリアコーディネーター等の試験資料を参考にする。 |

生活学科
専門教育科目

| 授業コード | 1174 | 科目名 | 建築文化史 | 担当者 | 田中　栄治 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
日本の近代建築は明治維新から始まった。近世以前の日本および西洋の建築の歴史を概観した上で、明治以降の日本人建築家たちの作品を通して現代建築に至る過程を学ぶ。

**【到達目標】**
日本建築および西洋建築の歴史の概要を把握し、建築史の視点から現代建築の理解を深める。

**【授業計画】**
日本および西洋の建築の歴史をふまえ、明治以後日本人建築家達がいかに西洋建築を学び、マスターしたか、そして如何にすればそれを越えた日本建築が出来るかを考え、デザインしながら現代建築に繋がってきたかを学ぶ。
第１回　日本と西洋の建築　近世以前と近代以降
　　　　日本の近世以前　神社建築
第２回　日本の近世以前　寺院建築
第３回　日本の近世以前　住宅・城郭・茶室建築
第４回　フィールドワーク１（予定：神戸の社寺建築）
第５回　西洋の近世以前　古代ギリシア建築・古代ローマ建築
第６回　西洋の近世以前　ロマネスク建築・ゴシック建築
第７回　西洋の近世以前　ルネサンス建築・バロック建築・古典主義建築
第８回　近代以降　明治期日本における西洋建築の導入
第９回　西欧における建築ムーブメントの影響
第10回　フィールドワーク２（予定：神戸旧居留地の建築）
第11回　近代主義建築の影響と展開
第12回　ポスト・モダンの時代
第13回　フィールドワーク３（予定：神戸における安藤忠雄設計の建築）
第14回　環境の時代
第15回　まとめ

フィールドワークは学外において建築の見学・講義を行い、各自レポートをまとめる。
　※事情により場所および日時が変更する場合がある。
また、DVD 等の映像を通して建築家の設計した建築や建築設計の実例に関する知識を深める。

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
フィールドワークの時は、歩きやすい靴と服装で出席すること。

| 成績評価方法 | レポートおよび試験による。受講態度を重視する。（2/ 3以上出席のこと） |
|---|---|
| テキスト参考書 | 授業時にプリントを配布する。〔参考書〕『カラー版 建築と都市の歴史』 光井渉、太記祐一 （井上書院）、『建築の歴史　西洋・日本・近代』 西田雅嗣・矢ケ崎善太郎 （学芸出版社） |

| 授業コード | 1175 | 科目名 | 住居学 | 担当者 | 田中　栄治 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
人間の最も基本的な生活環境である住まいに関する基礎的知識を学ぶ。
また、インテリアコーディネーター試験のうち住宅分野の基礎知識を習得する。

**【到達目標】**
住まいと人間の生活や周辺環境との関連、日本の住まいの歴史や建て方、住環境に関する基礎知識を習得し、戦後の日本の住宅問題の変遷を理解することにより、現代の日本の住まいが持っている課題を把握する。

**【授業計画】**
住まいを人間の生活および周辺環境との関連で捉え、住環境を計画するために必要な基礎的知識を学ぶ。
第１回　　　住まいとは
第２回　　　人間の生活と住まい
第３～５回　日本の住まい －住まいの変遷－
第６回　　　住まいの建て方 －住まいの材料・構法－
第７回　　　見学１（予定：住宅設備メーカーのショールーム見学）
第８回　　　室内環境と私たちの生活
第９～11回　住まいの問題
第12回　　　見学２（予定：神戸市すまいの安心支援センター見学）
第13～14回　環境問題と住まい
第15回　　　まとめ
※学外での見学は見学先の事情により、見学先および見学日時が変更する場合がある。
　また、ビデオ等の映像を通して建築家の設計した住宅や住宅設計の実例に関する知識を深める

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
ふだん生活している自分の住まいを見直すことからはじめてみましょう。

| 成績評価方法 | レポート及びテストによる。受講態度を重視する。（2/ 3以上出席のこと） |
|---|---|
| テキスト参考書 | 授業時にプリントを配布する。〔参考書〕『図説テキスト・住居学　第二版』岸本幸臣編　岸本幸臣著（彰国社）、『図解住居学シリーズ１～６』図解住居学編集委員会編（彰国社）、その他、インテリアコーディネーター等の試験資料を参考にする。 |

| 授業コード | 1176 | 科目名 | ポジティブ心理学 | 担当者 | 吉津　潤 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
私たちは皆、違った感じ方や、考え方、性格をしている。それはひとりひとりが持つそれぞれの良いところ（強み）でもある。ポジティブ心理学では、それぞれの強みを伸ばしていくことが幸せにつながると考える。本講義では、受講生が課題を通して自らの強みを発見し、より良い人生や幸せについて考える機会を提供する。

**【到達目標】**
ポジティブ心理学における「強み」について理解し、受講生自身の「強み」がより良い人生や幸せにどのように役立つのか、具体的に考えることができるようになることを目指す。

**【授業計画】**
第１回　ポジティブ心理学とは
第２回　強みについて１　－強みとは何か－
第３回　強みについて２　－映画でみる強み（１）－
第４回　強みについて３　－映画でみる強み（２）－
第５回　強みについて４　－自分自身の強みを発見しよう－
第６回　幸せについて１　－幸せとは何か－
第７回　幸せについて２　－幸せを集めよう－
第８回　感情について１　－感情とはどのようなものか－
第９回　感情について２　－感情と脳・生理・発達－
第10回　感情について３　－感情をコントロールする－
第11回　感情について４　－愛着・感謝・癒し－
第12回　認知・思考について１　－認知・思考とはどのようなものか－
第13回　認知・思考について２　－クリティカルな思考、楽観主義・悲観主義－
第14回　ユーモアについて　－強みとしてのユーモア－
第15回　まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
講義内容をより深く理解するために、講義とあわせて実践（映画鑑賞、心理テスト、グループワーク、課題作成など）を行う。講義、実践に関わらず積極的に参加することが望まれる。

| 成績評価方法 | 授業への参加姿勢、授業中の課題、期末レポートを総合して評価する。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 特になし。参考資料等を適宜配布する。 |

| 授業コード | 1177 | 科目名 | 社会心理学 | 担当者 | 村上　幸史 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
われわれは思う以上に多くの人と接しており、そのことが自分自身の態度、行動を決めているとは言い過ぎでしょうか。私・私たち・集団とその範囲を拡大して見ていくことで、社会とその中で暮らす人についての理解を試みます。

**【到達目標】**
社会的な意味を持つ人の行動について、興味を持ち、理解するようになること

**【授業計画】**
第１回　オリエンテーション
第２回　自己呈示
第３回　人の印象と魅力
第４回　恋愛を科学する
第５回　人が見ていることの影響１
第６回　人が見ていることの影響２
第７回　状況の力
第８回　うわさの魔力
第９回　説得
第10回　少数者影響１
第11回　少数者影響２
第12回　集団討議１
第13回　集団討議２
第14回　なわばり
第15回　まとめ

授業内容は講義を中心に、簡単な実験やビデオなども交えて進めていきます。

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
講義で説明したことを、自分の考えでまとめたり、他者に説明できることを目指してください

| 成績評価方法 | 授業中の課題／受講態度／試験により評価します。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 授業の中で紹介する予定です。 |

| 授業コード | 1178 | 科目名 | 認知心理学 | 担当者 | 村上　幸史 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
日常生活の中で私たち自身が物事を理解するしくみと、それに関わる「こころ」のはたらきについて、基礎的な部分での理解を目指します。また応用的な題材として、科学的には否定される不思議現象に関する認知を具体例として取り上げます。

【到達目標】
私たち自身が物事を理解するしくみとその誤りを理解できるようになること

【授業計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　脳と心の関係
第３回　知覚のふしぎ１
第４回　知覚のふしぎ２
第５回　意識と無意識１
第６回　意識と無意識２
第７回　学習の心理学
第８回　記憶のしくみ１
第９回　記憶のしくみ２
第10回　記憶のしくみ３
第11回　思考と推論１
第12回　思考と推論２
第13回　思考と推論３
第14回　思考と推論４
第15回　まとめ

授業内容は講義を中心に、簡単な実験やビデオなども交えて進めていきます。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
講義で説明したことを、自分の考えでまとめたり、他者に説明できることを目指してください

| 成績評価方法 | 授業中の課題／受講態度／試験により評価します。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 授業の中で紹介する予定です。 |

| 授業コード | 1179 | 科目名 | 発達心理学<br>生涯発達の視点 | 担当者 | 楠本　和歌子 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
発達心理学の基礎的知識を学ぶ。その際、生涯発達の視点、発達臨床心理学の視点にも触れ、各発達段階における変化や課題について考える

【到達目標】
・臨床心理学の定義と歴史について基礎的知識を理解する。
・臨床心理学の主要な理論について知る。
・臨床心理学の実践における基礎的な考え方について学ぶ。

【授業計画】
第１回　発達心理学とは
第２回　発達精神病理学的理論１
第３回　発達精神病理学的理論２
第４回　胎生期から新生児期における発達過程と問題
第５回　乳幼児期における発達過程と問題１
第６回　乳幼児期における発達過程と問題２
第７回　乳幼児期における発達過程と問題３
第８回　児童・青年期における発達過程と問題１
第９回　児童・青年期における発達過程と問題２
第10回　成人期・老年期における発達過程と問題
第11回　育児に関わる困難
第12回　子どもを支える資源
第13回　発達臨床の現場１
第14回　発達臨床の現場２
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
講義形式のため学生は受身になりがちですが、講義の内容を自らの生活に引きつけて考察し、活発な意見交換を通じて、能動的に考える力を養うように心がけて下さい。

| 成績評価方法 | 期末の試験，授業への取り組み状況を総合的に評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 教科書は指定せず、適宜授業中に紹介する |

| 授業コード | 1180 | 科目名 | 教育心理学<br>児童・生徒の理解につながる心理学的視点を学ぶ | 担当者 | 楠本　和歌子 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
教育に関わる心理学的知見について学ぶ。また、具体的な教育場面についても扱い、児童・生徒の理解を助ける心理学的な視点の基礎を身につけることを目指す。

**【到達目標】**
心理学という学問を背景にして、教育について考えることができる考察力を身に付ける。

**【授業計画】**
第１回　教育心理学とは何か
第２回　遊びと学び
第３回・第４回　発達と教育
第５回・第６回　学習と教育
第７回・第８回　社会と教育
第９回・第10回　発達障害
第11回　精神的障害
第12回〜第14回　問題を抱える生徒の理解と対応
第15回　まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
活発な意見交換を通じて、自ら具体的に実践的に考える力を養うよう心がけて下さい。

| 成績評価方法 | 期末のレポート試験，授業への取り組み状況を総合的に評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 教科書は指定せず、適宜授業中に紹介する |

| 授業コード | 1187 | 科目名 | マルチメディア応用（2） | 担当者 | 岡　本　　久 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
身近な映像機器を用いた動画作品の制作演習。ビデオカメラをはじめ、日頃から使っている携帯電話やデジカメなどを用いて様々なテーマでの撮影を行う。また撮影した映像をパソコンで編集し、タイトルや音声、BGM をつけるなど、映像作品の一連の制作方法について広く学習する。

**【到達目標】**
①撮影や編集の基本や応用について幅広く身に着ける。
②身近な機械を有効活用できるようになる。
③制作に関する複数のプロセスを、最初から最後まで一人でできる力を身につける。

**【授業計画】**
第１回　：授業ガイダンス
第２〜９回：撮影、編集の演習（撮影方法や編集ソフトの基本学習とケーススタディ）
音声やタイトルのつけ方、エフェクト処理など映像効果に関する学習
第10〜14回：与えられたテーマによる課題制作（シナリオ制作・撮影・編集）
完成した映像の発表（合評）
第15回　：まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
普段使っている携帯電話やデジカメ、パソコン等を使いこなし、より表現力の高い映像作品の制作方法を学習することで、さまざまな場面で役立つプレゼンテーション能力を高めることができます。

| 成績評価方法 | 受講態度、取り組み姿勢、課題による総合評価。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 配布資料等 |

| 授業コード | 1190 | 科目名 | ホームページ作成中級<br>答えを返すホームページ作成 | 担当者 | 田中　裕 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
プログラムにより答えを返すホームページを作成する。

**【到達目標】**
簡単な計算や辞書機能を持つホームページを作れるようになること。

**【授業計画】**
第１－４回：基本的なタグ
第５－６回：変数と関数（perl）
第７－８回：配列とハッシュ
第９回　　：分岐
第10回　　：繰り返し
第11回　　：CGI
第12－13回：簡単な計算の答
第14－15回：データベース処理

| 成績評価方法 | 日常の課題 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 必要資料はこちらで用意する。 |

| 授業コード | 1191 | 科目名 | くらしと統計（１） | 担当者 | 渡辺　卓也 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
統計とは、たくさんの数からなる集団の性質を、数量的に明らかにすることです。この授業では、統計を扱うための基礎を学びます。

**【到達目標】**
①大きな数の扱い方に慣れる。
②物事を数量的に分析するための基本的な考え方を身につける。
③分析に必要なソフトウェア（エクセル）操作法の基礎を身につける。

**【授業計画】**
第１回　はじめに
第２回　表とグラフ（１）
第３回　表とグラフ（２）
第４回　代表値
第５回　データの傾向や広がり（１）
第６回　データの傾向や広がり（２）
第７回　場合の数（１）
第８回　場合の数（２）
第９回　確率（１）
第10回　確率（２）
第11回　乱数
第12回　正規分布（１）
第13回　正規分布（２）
第14回　正規分布（３）
第15回　まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
統計の学習には、数学やコンピュータがどうしても必要になります。苦手な人は反復練習によって基礎力をつけましょう。エクセルは「表計算初級」程度の操作はできるようにしておいてください。

| 成績評価方法 | ①「受講態度」：各回の授業内容の理解度により評価　②「課題」：授業内容の応用問題の提出状況により評価<br>③「試験」：重要事項の確認および総合力を評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | プリントを配布します。 |

| 授業コード | 1192 | 科目名 | くらしと統計（2） | 担当者 | 渡辺　卓也 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
くらしと統計（1）の基礎知識をふまえ、物事を統計的に分析するための知識を高めます。

**【到達目標】**
①いくつかの確率分布の性質を理解している。
②標本調査の基本的な手法および限界を理解している。

**【授業計画】**
第１回　はじめに
第２回　代表値、度数分布表、ヒストグラム
第３回　データのばらつきと相関
第４回　確率変数（１）
第５回　確率変数（２）
第６回　確率分布（１）　一様分布
第７回　確率分布（２）　二項分布
第８回　確率分布（３）　ポアソン分布
第９回　確率分布（４）　正規分布
第10回　母集団と標本
第11回　推定（１）
第12回　推定（２）
第13回　仮説の検定（１）
第14回　仮説の検定（２）
第15回　回帰分析・まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
「くらしと統計（1）」の内容が前提となります。また、表計算ソフト「エクセル」を使用するので、操作方法に慣れていない人は、前もって「表計算初級」を履修しておくことをおすすめします。

| 成績評価方法 | ①「受講態度」: 各回の授業内容の理解度により評価　②「課題」: 授業内容の応用問題の提出状況により評価<br>③「試験」: 重要事項の確認および総合力を評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | プリントを配布します。 |

| 授業コード | 1197 | 科目名 | パソコンのしくみと管理 | 担当者 | 田中　裕 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
パソコンの分解組み立てを通してパソコンの構造や管理を学ぶ。

**【到達目標】**
１．パソコンの分解をしてどんな部品が使われているかを知る。
２．パソコンの組み立てを経験する。
３．OS 等の基本的な設定ができる。

**【授業計画】**
第１－３回：パソコンの分解
第４－９回：パソコンの組み立て
第10－12回：OS のインストールと設定
第13－15回：種々のソフトのインストールと設定

| 成績評価方法 | 平常点 |
|---|---|
| テキスト参考書 | テキスト、部品等はこちらで用意します。 |

| 授業コード | 1200 | 科目名 | 総合情報演習Ｂ | 担当者 | 渡辺　卓也 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
情報処理に関するさまざまな知識・技術を応用して、実用的な作品やプログラムなどを制作します。

【到達目標】
①コンピュータを使用して作品を作るためのいくつかの知識・技術を身につける
②グループで共同制作、発表を行うためのノウハウを習得する

【授業計画】
第１回～第３回　グループ分け・計画づくり
第４回～第13回　作品制作作業
第14回　発表会準備
第15回　作品発表会

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
グループでの共同制作が原則となります。

| 成績評価方法 | ①「受講態度」：各回の作業報告書の提出状況により評価<br>②「作品発表」：作品の完成度、発表内容の完成度、貢献度などにより総合的に評価 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 必要な資料は適宜用意します。 |

| 授業コード | 1201 | 科目名 | 美と健康クッキング<br>作る楽しさ、食事を囲む楽しさ、食の美を楽しむ力を養う。 | 担当者 | 本多　佐知子 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
・健康、長寿、美しくなる為には、毎日の食卓から生まれます。調理実習を通じて自分の食生活を見直してみましょう。
・盛り付けや食卓の演出で、食を楽しみましょう。食材の機能成分についても学びます。

【到達目標】
・健やかな身体と心を作る為のヘルシークッキングを学ぶ。
・グループでの実習を通じて協力し合いながら料理を作る。食卓を囲んで食べる楽しさを知る。
・美しく盛り付けたり、食卓のコーディネートする力をつける。

【授業計画】
第１回：オリエンテーション　－食生活指針について－
第２回：洋風料理をヘルシーに　－主食、主菜、副菜について－
第３回：春の和風料理　－旬を考える－
第４回：手作り点心　－食の安全－
第５回：おもてなしフランス料理　－カルシウムを豊富に－
第６回：本格カレーで色・香りを楽しむ　－スパイスの効用－
第７回：アフタヌーンティーを楽しむ　－おやつについて－
第８回：アジアン・エスニック料理　－食物繊維を豊富に－
第９回：おふくろの味　－日本型食生活－
第10回：大皿盛りで中国料理　－鉄分を豊富に－
第11回：お弁当作り
第12回：初夏の食欲をそそる和食　－魚を主菜に－
第13回：松花堂弁当
第14回：ビュッフェスタイルパーティー料理　－食卓の演出－
第15回：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
健康を維持するために、毎回テーマを掲げ、身体にどのようによい効果をもたらすのか、考え調べる。
配布したプリントを見て、食文化、食材、栄養素、健康について調べ、レポートにまとめる。

| 成績評価方法 | 実習態度を重視、あわせてレポート提出とで、総合的に評価する。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | 実習ごとにプリントを配付 |

| 授業コード | 1202 | 科目名 | 音楽基礎<br>音楽により近づくために | 担当者 | 坪田　マサヱ |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |

【授業概要】
各人が音楽を演奏あるいは作曲する時、今まで何げなく使って来たこと、覚えて来たことの意味を知り、基礎的な知識全般を具体的な角度から学んで行く。

【到達目標】
Music とは楽譜のこと、楽譜から直接自身の音楽を読みとる。

【授業計画】
第１回～第２回　音・音符に慣れる
第３回～第４回　全音と半音の意味
第５回～第７回　音程とひびき
第８回～第10回　和音（コード）のひびきと色
第11回～第14回　調性
第15回　テスト

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎週の積み重ねが大切、根気よくくり返して学んでください。

| 成績評価方法 | 授業中の課題の実施状況＋テスト |
| --- | --- |
| テキスト参考書 | 適宜配布、五線ノート用意 |

| 授業コード | 1203 | 科目名 | ソルフェージュ<br>音楽をより深く感じる為に | 担当者 | 坪田　マサヱ |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |

【授業概要】
ソルフェージュとは、もともとソとかファでうたうということ。
声に出すことで、リズム感、テンポ感、又メロディー・ハーモニーの流れを体感する。

【到達目標】
音楽に対しての繊細な感性を身につける。

【授業計画】
第１回～第14回
・ランニングテンポの習得
・ヒンデミットの教材の課題を順次実習
・和音のひびきを歌って実感
・色々な拍子やテンポの簡単なフレーズを歌いながら実感
以上を毎時レベルを上げながら実施
第15回　テスト

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
音楽とは「音」を「楽」しむこと！
文字どおり楽しみながら学んで下さい。

| 成績評価方法 | 授業中の課題の実施状況＋テスト |
| --- | --- |
| テキスト参考書 | 適宜配布、五線ノート用意 |

| 授　業<br>コ ー ド | 1217 | 科 目 名 | コンピュータ・ミュージックA | 担 当 者 | 泉 川　秀 文 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
今、社会ではクリエイティブな人材が求められています。この授業では、現代の音楽制作の現場・スタジオに欠かせないコンピュータを使って、作曲や編曲、楽譜の作成など音楽の創作に関する入門的な学習をおこないます。また、皆さんそれぞれがオリジナルのメロディーづくりに挑戦することで、音楽を生み出す楽しみを知り、創造力・感性を磨きます。

【到達目標】
・楽譜作成ソフトを用いてコンピュータ上で音符の入力をおこない、五線譜を作成する。
・MIDI での音楽制作（打ち込み）・自動演奏など、DTM（デスクトップ・ミュージック）の基礎技術を知る。
・楽譜作成ソフトを用いてメロディ制作、作曲や編曲に挑戦し、創造力・クリエイティビティを養う。

【授業計画】
第１回－２回：『音楽の基礎の基礎』　…　五線譜を読むための基礎知識の習得
第３回－６回：『ソフト操作の習得』　…　楽譜作成ソフトの基本操作の習得
第７回－14回：『課題制作』　…　楽譜作成ソフトによる楽譜作成、清書、印刷の演習、およびオリジナル曲制作
第15回　　　：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
パソコンを使って音楽制作の入門的な指導を行っていきますので、音楽に関してまったくの初心者でも問題ありません。毎回の学習を楽しみながらしっかり積み重ねていくことが大切です。

| 成績評価<br>方法 | 受講態度、取り組み姿勢、課題提出内容等による総合評価 |
|---|---|
| テキスト<br>参考書 | 「ミュージッククリエーターハンドブック」MIDI 検定公式ガイド、オンラインマニュアル等 |

| 授　業<br>コ ー ド | 1235 | 科 目 名 | TA 演習 A | 担 当 者 | 渡 辺　卓 也 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
TA として、情報関係授業の実習を補佐する。

【到達目標】
実習を通して、情報処理の技能や知識をより確実なものにします。

【授業計画】
事前説明　TA 実習の内容、心がけ、評価について

第１回～第15回　実習補佐

事後　実習記録、およびレポートの提出

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
実習体験を通して、わかりやすい指導を行うためには何が重要なのかを学びながら、知識をより確実なものにします。TA 実習の対象となる授業、定員については別途通知します。

| 成績評価<br>方法 | 実習レポート、指導中の態度、学生の評価などから総合的に評価。 |
|---|---|
| テキスト<br>参考書 | テキストは担当する授業によって異なります。 |

| 授　業コード | 1236 | 科目名 | TA 演習 B | 担当者 | 渡辺　卓也 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
TA として、情報関係授業の実習を補佐する。

**【到達目標】**
実習を通して、情報処理の技能や知識をより確実なものにします。

**【授業計画】**
事前説明　TA 実習の内容、心がけ、評価について

第１回～第15回　実習補佐

事後　実習記録、およびレポートの提出

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
実習体験を通して、わかりやすい指導を行うためには何が重要なのかを学びながら、知識をより確実なものにします。TA 実習の対象となる授業、定員については別途通知します。

| 成績評価方法 | 実習レポート、指導中の態度、学生の評価などから総合的に評価。 |
|---|---|
| テキスト参考書 | テキストは担当する授業によって異なります。 |

生活学科
専門教育科目

| 授　業コード | 1237 | 科目名 | 家族論<br>家族の現在とそのゆくえ | 担当者 | 門野　里栄子 |
|---|---|---|---|---|---|

**【授業概要】**
当たり前に存在しているかにみえる「家族」を、他文化との比較や歴史の中に置くことによって相対化し、とらえ直す作業を行う。

**【到達目標】**
「家族」の多様性を理解し、自分が将来築いていく家族や他の家族について、いろんな家族を受け入れられるようになることを目指す。

**【授業計画】**
第１回　　家族をみる視点：「家族」は定義できるか？
第２回　　未婚化：結婚しないかもしれない？
第３回　　少子化：子どもを大事にすればするほど子どもの数は減る？
第４回　　「恋愛＋結婚」と離婚
第５回　　児童虐待：子どもは大切にされなくなったのか？
第６回　　つくられる母性愛
第７回　　「近代家族」の特徴
第８回　　討論：現代の家族問題
第９回　　夫婦別姓：夫婦同姓は家族の一体感か、古いイエ意識か？
第10回　　事実婚：愛情としての結婚と制度としての結婚
第11回　　同性愛：異性ではなく同性を愛するということ
第12回　　明治民法：嫁入り婚、夫婦同姓、戸籍のルーツを探る
第13回　　いろんな家族：誰と共に生きるか？
第14回　　「家族」をパフォーマンスする
第15回　　まとめ

**【受講上のアドバイス・準備学習・復習】**
毎回、授業に対する質問・感想などのコメントを提出してもらう。任意ではあるが、授業の最後に書くことを念頭に置きながら授業を聞いてほしい。

| 成績評価方法 | 学期末試験85点、毎授業のコメント提出15点 |
|---|---|
| テキスト参考書 | テキストは特に指定しない。必要に応じて、授業時に資料を配布する。 |

| 授業コード | 1238 | 科目名 | 児童学<br>「発達」から児童の生活世界をみる | 担当者 | 黒　岩　　督 |
|---|---|---|---|---|---|

【授業概要】
児童の心や体のはたらきには，大人と違ったさまざまな特徴を認めることができます。この授業では，児童のこうした特徴や，その発達的な変化のプロセスについて，自分自身と比較したり，自分自身を振り返ったりしながらみていくことによって，児童の「生活世界」についての理解を深めていきます。

【到達目標】
①　「発達とは何か」「ヒトはいかに人になっていくのか」について理解する。
②　自分自身の「発達」を振り返ることができる。
③　②について、考えたこと、感じたことを適切に表現する。

【授業計画】
第１回～２回：発達の意味
第３回～４回：身体・運動の発達
第５回～９回：認識の発達（知覚と認知，記憶と学習，言語，知能と創造性）
第10回～11回：表出の発達（描画と表現活動，感情と情緒）
第12回～14回：自己の発達（動機づけ，自我と人格，向社会的行動）
第15回　　　：まとめ

授業は簡単な心理実験や心理検査もまじえながら行なっていきます。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業内容を自分自身の「発達」や周囲の子どもたちの様子と照らし合わせて考えることを心掛けてください。

| 成績評価方法 | ①期末の筆記試験：基本的な知識及び概念の理解　②課題レポート：自己の心身の機能についての適切な把握<br>③授業に対する関与度：教員とのやりとり、受講生同士でのやりとり |
|---|---|
| テキスト参考書 | テキストは使用しません。プリントを配付します。 |

生活学科
専門教育科目